宜野湾市文化財調査報告書　第60集

佐真下屋取古集落遺跡

令和元年

佐真下ゲート前道路整備に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査

2023年(令和５年)２月

沖縄県 宜野湾市教育委員会

宜野湾市文化財調査報告書　第60集　佐真下屋取古集落遺跡　二〇二三年（令和五年）二月　沖縄県　宜野湾市教育委員会

佐真下屋取古集落遺跡

令和元年

佐真下ゲート前道路整備に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査

２０２３年(令和５年)２月

沖縄県 宜野湾市教育委員会

序

本報告書は令和元年 11 月から同年 12 月にかけて宜野湾市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものであります。

今回、発掘調査が行われた佐真下屋取古集落は今から約 70 ～ 150 年前の近代に位置づけられる遺跡です。本遺跡は大部分を普天間飛行場に接収された佐真下集落の一端が垣間見える遺跡となっております。

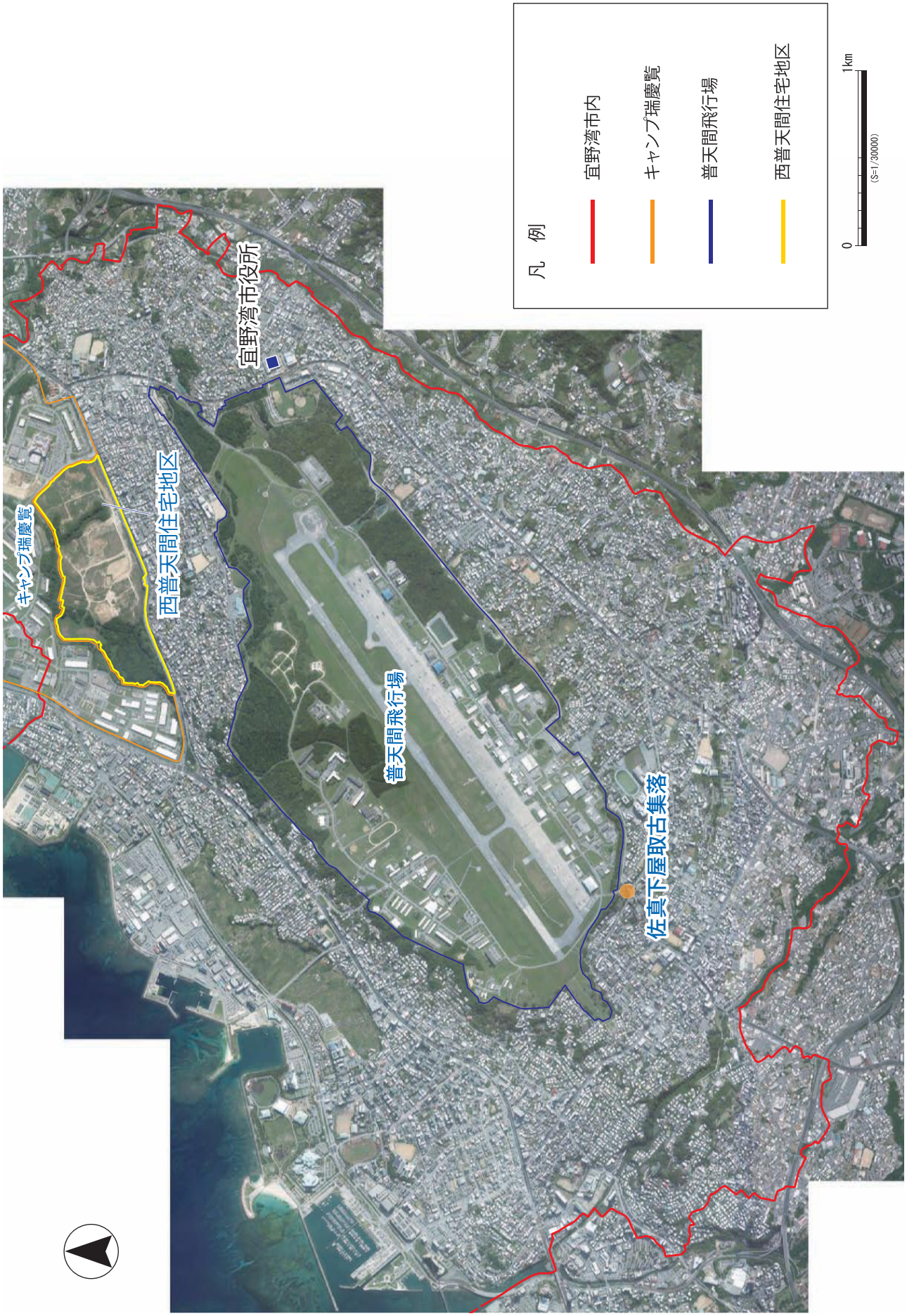
また、調査が行われた場所は宜野湾並松街道沿いとなっており、調査区に残る石灰岩の岩盤には、街道を通すために岩が削られた痕も確認できました。

今回の発掘調査の成果が市民の歴史的教材及び文化財保護・活用資料として広く活かされ、また宜野湾市及び周辺地域の歴史研究の学術的資料として検討いただければ幸いに存じます。

末尾になりますが、調査を実施するにあたりご協力を賜りました関係者各位に対して深く感謝の意を表します。

2023（令和 5）年 2 月

沖縄県　宜野湾市教育委員会
教育長　仲　村　宗　男



巻頭図版１　報告書所収調査地位置

巻頭図版２　試掘調査遠景（西より）

巻頭図版３　試掘調査風景（南より）

巻頭図版４　本調査遠景（南西より）

巻頭図版５　本調査近景（北東より）

巻頭図版６　切り通し（ワィトゥイ）（南東より）

巻頭図版７　並松街道沿いの岩盤（東より）

例　言

1．本報告書は、市道 11 号整備に係る開発行為に伴い、宜野湾市教育委員会が令和元（平成 31）年度に実施した佐真下屋取古集落の緊急発掘調査の成果を収録したものである。

2．本書に掲載した地図は、基本的に宜野湾市都市計画課発行の都市計画図（1：2,500）を使用しており、他の情報図については、宜野湾市教育委員会が管理・運営している GIS データを主に使用している 。

3．本書で使用した土色は、農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。

4．本文中における遺跡の基準方位は、国土座標系（旧座標系）第ＸＶ座標系の座標北を用いた。

5．本書の編集は、比嘉小百合、伊波晴美の協力を得て金城りおが行った。

6．現地調査で得られた実測図・写真・画像デジタルデータ・地形測量図等の各種調査記録は、全て宜野湾市教育委員会に保管している。

凡　例

沖縄産施釉陶器

Ⅰ類　釉薬を単掛けするもの
器面に一種類の釉薬をそのまま施釉するもので、施釉範囲は内外面、或いは外面のみに及ぶ。

Ⅱ類　内外器面の釉薬を掛け分けるもの
外器面に鉄釉や黒釉などを施釉した後、内器面に灰釉を掛けるもので、①内器面に白化粧をさないものと、②内器面に白化粧を施した後で灰釉を掛けるものがある。

Ⅲ類　内外器面に白化粧し、透明釉を施すもの
器面の内外に白化粧を施し、さらにその上から透明釉 (灰釉) を施すもの。

【釉薬の種類】
（イ）灰釉　透明～半透明で灰色、褐色、オリーブ褐色などを呈する
（ロ）鉄釉　褐色～暗褐色
（ハ）黒釉　黒色

碗
【口縁形態】
Ａ．口縁部が直口するもの
Ｂ．口縁部が外反するもの
Ｃ．口縁部が玉縁状

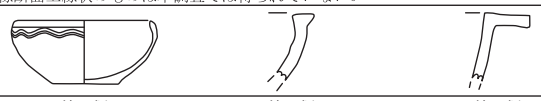
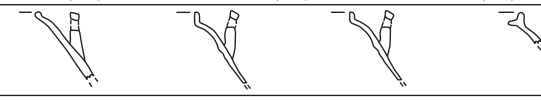
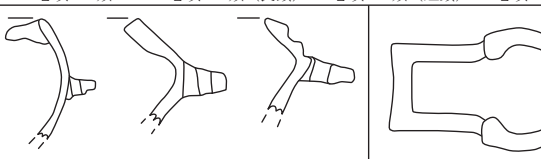
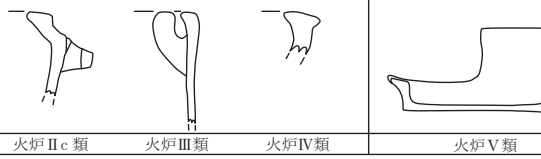
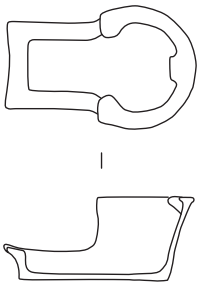
【施釉技法】
（1）フィガキーするもの
（2）錆釉薬による同心円を施すもの
（3）蛇の目釉剥ぎを行うもの

【胴部形態】
a. 胴部の腰が張らないもの
b. 胴部の腰が張るもの

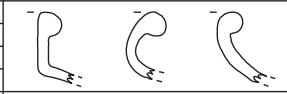
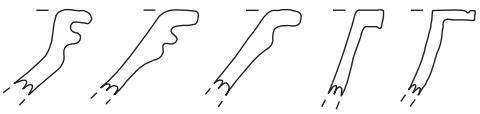
鉢
【口縁形態】
Ａ．口縁部が逆Ｌ字形するもの
Ｂ．口縁部が外反するもの
Ｃ．口縁部が波形のもの
Ｄ．口縁部が玉縁状

火入れ
【口縁形態】
Ａ．口縁部が直口するもの
Ｂ．口縁部が内傾するもの

アカムヌー分類一覧

器種	分類				備考
	属性	記号		基準	
鍋	蓋受け	Ⅰ類		滑り止めがないもの。	鍋Ⅰ類 鍋Ⅱa類 鍋Ⅱb類
		Ⅱ類	a	蓋受け部をヨコナデによって窪ませることで、滑り止めを作るもの。	
			b	蓋受け端部を成形することによって、ツメ（滑り止め）を作り出すもの。	
	大きさ	大		口径26㎝以上のもの。	撮径約9㎝以上、または庇端部径約23㎝以上の鍋蓋が概ね対応。
		中	大	口径24～25㎝のもの。	撮径約8㎝～9㎝、または庇端部径約21～23㎝の鍋蓋が概ね対応。
			中	口径21～23㎝のもの。	撮径約7㎝～8㎝　または庇端部径約19～21㎝の鍋蓋が概ね対応。
			小	口径19～20㎝のもの。	撮径約6㎝～7㎝、または庇端部径約18～19㎝の鍋蓋が概ね対応。
		小		口径18㎝以下のもの。	撮径約6㎝以下、または庇端部径約18㎝以下の鍋蓋が概ね対応。
鉢	口縁部	Ⅰ類	a	口縁部が内彎し、外面に篦描きの波状線を描くもの。	ミジクブサー（水鉢）。
			b	口縁部が内彎するもので、無文のもの。	ミジクブサー（水鉢）。
		Ⅱ類		内彎口縁で、口唇が平坦のもの。	ミジクブサー（水鉢）。『嘉数トゥンヤマ遺跡』Ⅰで Ⅱ類として報告されている口縁断面玉縁状のものは本調査では得られていない。
		Ⅲ類		口縁断面が逆Ｌ字状を呈すもの。	 鉢Ⅰ類 鉢Ⅱ類 鉢Ⅲ類
急須	頸部	Ⅰ類		無頸のもの。	
		Ⅱ類		有頸のもの。	
	口縁	a類		蓋受けを作らないもの。	 急須Ⅰa類 急須Ⅱa類（長頸） 急須Ⅱa類（短頸） 急須Ⅱb類
		b類		蓋受けをつくるもの。	
火炉	器形	Ⅰ類		器形球状で、胴部中央から口縁へ大きく内傾するもの。	 火炉Ⅰ類 火炉Ⅱa類 火炉Ⅱb類
		Ⅱ類	a	胴部から「く」の字状に折れて口縁が内傾するもの。	
			b	胴部から「く」の字状に折れて口縁が内傾するもので、口縁に突帯が廻るもの。	
			c	胴部上位で「く」の字状に折れて口縁が直状に立上るもの。	 火炉Ⅱc類 火炉Ⅲ類 火炉Ⅳ類
		Ⅲ類		円筒状の器形を呈すもの。	
		Ⅳ類		浅鉢状になるもの。	
		Ⅴ類		上面観が馬蹄形を呈し、大型のもの。	 火炉Ⅴ類

沖縄産無釉陶器分類一覧

器種	分類				備考		
	記号			基準			
壺	Ⅰ類			口縁断面が逆Ｌ字状を呈す長頸のもの。	大	口径 20 ㎝前後	Ⅰ類 Ⅲ類
					中	口径 12 ㎝前後	
						口径 9 ㎝前後	
					小	口径 6 ㎝前後	
	Ⅱ類	a	1	有頸で口縁断面玉縁状を呈し、直状に立ち上がるもの。	大	口径 21 ㎝前後	
					小	口径 15 ㎝前後	
			2	有頸で口縁断面玉縁状を呈し、外反するもの。	大	口径 17 ㎝前後	
					小	口径 13 ㎝前後	
		b	—	無頸で口縁断面玉縁状を呈すもの。	大	口径 16 ㎝前後	
					小	口径 12 ㎝前後	Ⅱa1 類 Ⅱa2 類 Ⅱb類
	Ⅲ類			口縁断面が逆Ｌ字状を呈する短頸あるいは無頸のもの。			
	Ⅳ類			口縁が僅かに肥厚し（あるいは無肥厚）、外反するもの。口径は概ね10 ㎝以内。	大	口径 7 ㎝前後	
					小	口径 4 ㎝前後	
甕	Ⅰ類			口縁が断面三角状を呈し、口縁部からすぐに胴部へと移行するもの。			
	Ⅱ類			口縁断面が逆Ｌ字状で、口縁上面の幅が広いもの。			
	Ⅲ類			口縁断面が方形状に肥厚するもの。	大	口径 32 ～ 35 ㎝	
					中	口径 26 ～ 30 ㎝	
					小	口径 21 ～ 25 ㎝	
擂鉢	Ⅰ類		a	口縁断面が「く」の字状で、口縁直下に稜が施されるもののうち、口縁がやや直状に角度を変えて立ち上がるもの。			
			b	口縁断面が「く」の字状で、口縁直下に稜が施されるもののうち、口縁が外傾するもの。			
	Ⅱ類			Ⅰ類に比して、口縁断面が緩やかに「く」の字状をなすもの。			
	Ⅲ類			口縁断面が逆Ｌ字状で口唇の幅が狭いもの。櫛目の上端ラインが一様で整然と施される 。			Ⅰa類 Ⅰb類 Ⅱ類 Ⅲ類 Ⅳ類
	Ⅳ類			口縁断面が逆Ｌ字状で口唇の幅が広いもの。口唇部に圏線が廻る。	『嘉数トゥンヤマ遺跡』Ⅰの擂鉢Ⅲ類。		
鉢	Ⅰ類		a	口縁部が内彎し、外面に篦描きの波状線を描くもの。	ミジクブサー（水鉢）。		
			b	口縁部が内彎するもので、無文のもの。	ミジクブサー（水鉢）。		
	Ⅱ類		a	口縁部が内彎し、断面形が玉縁状を呈するもので有文のもの。	ミジクブサー（水鉢）。		
			b	口縁部が内彎し、断面形が玉縁状を呈するもので無文のもの。	ミジクブサー（水鉢）。		
	Ⅲ類			口縁断面が逆Ｌ字状を呈すもの。			
	Ⅳ類			口唇を平坦に成形し、口縁両端が張り出すもの。	『嘉数トゥンヤマ遺跡』Ⅰの甕Ⅳ類。		
	Ⅴ類			水鉢同様に、口縁が底部から開いて立ち上がるが、口縁は内彎しないもの。大型の浅鉢。			

目　次

序
巻頭図版
例言
凡例

第Ⅰ章　事業概要 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査体制 …… 1
　第３節　調査の経過 …… 3
第Ⅱ章　位置と環境
　第１節　地理的環境 …… 5
　第２節　歴史的環境 …… 6
　第３節　佐真下集落概要 …… 8
第Ⅲ章　発掘調査の成果
　　１.試掘調査の経過 …… 11
　第２節　佐真下ゲート前調査の概要 …… 17
　　１．本調査の概要 …… 17
　　２．基本層序 …… 17
　　３．遺構 …… 17
　　４．遺物 …… 50
第Ⅳ章　自然科学分析 …… 67
　第１節　調査の概要 …… 67
　第２節　試料 …… 67
　第３節　分析方法 ……
　　１．放射性炭素年代測定 …… 67
　　２．炭化材同定 …… 67
　第４節　結果 …… 68
　　１．放射性炭素年代測定 …… 68
　　２．炭化材同定 …… 68
　第５節　考察 …… 69
第Ⅳ章　結語 …… 71
引用・参考文献 …… 72
報告書抄録

巻頭図版

巻頭図版１　報告書所収調査位置
巻頭図版２　試掘調査遠景 (西より)
巻頭図版３　試掘調査遠景 (南より)
巻頭図版４　本調査遠景 (南西より)
巻頭図版５　本調査遠景 (北東より)
巻頭図版６　切り通し (ワイトゥイ)(南東より)
巻頭図版７　並松街道沿いの岩盤 (東より)

挿図目次

第Ⅱ－１図　宜野湾市の位置 …… 5
第Ⅱ－２図　宜野湾市の地質図 …… 6
第Ⅱ－３図　宜野湾市地形分布図 …… 7
第Ⅱ－４図　昭和 20 年航空写真 …… 9
第Ⅱ－５図　佐真下集落屋号図（1945 年) …… 10
第Ⅲ－１図　佐真下屋取古集落 (拡大) …… 11
第Ⅲ－２図　試掘調査 断面図 …… 12
第Ⅲ－３図　試掘調査 断面図 …… 13
第Ⅲ－４図　調査区全体平面図１ …… 19
第Ⅲ－５図　調査区　立面図 …… 23
第Ⅲ－６図　北端トレンチ壁面図 …… 24
第Ⅲ－７図　切り通しトレンチ …… 25
第Ⅲ－８図　沖縄産無釉陶器 (甕 1、擂鉢 2、壺 3）. 陶質土器 (鉢 4） …… 51
第Ⅲ - ９図　沖縄産施釉陶器 (碗 5.6.13、火入 7.9.14、鉢 8、酒器 10 ～ 11、14） …… 52
第Ⅲ -10 図　本土産磁器 (碗 15 ～ 21） …… 53
第Ⅲ -11 図　本土産磁器 (小碗 22 ～ 25、小杯 26.27、火入 28、袋物 29、急須 30） …… 54
第Ⅲ -12 図　本土産陶磁器 (皿 31 ～ 35、蓋 36） …… 55
第Ⅲ -13 図　瓦 (瓦 37.38) …… 56
第Ⅲ -14 図　ガラス製品 (瓶 39 ～ 46、ランプ笠 47 ～ 48, 銭貨 49） …… 57
第Ⅲ -15 図　暦年較正結果 …… 69

図版目次

図版Ⅰ－１　本調査作業状況 …… 3
図版Ⅰ－２　本調査作業状況 …… 4
図版Ⅱ－１　メーヌカー …… 8
図版Ⅱ－２　ウブガー …… 8
図版Ⅲ－１　佐真下ゲート前 (試掘調査区方向より) …… 11
図版Ⅲ－２　試掘調査　ワイトゥイ …… 14
図版Ⅲ－３　試掘調査状況 …… 14
図版Ⅲ－４　試掘調査状況 …… 15
図版Ⅲ－５　試掘調査遺物 …… 16
図版Ⅲ－６　削り出された岩盤 (並松街道側） …… 18
図版Ⅲ－７　岩盤に残る加工痕 …… 18
図版Ⅲ－８　調査区全体平面２ …… 21
図版Ⅲ－９　除草作業 …… 26
図版Ⅲ－10　除草作業 …… 26
図版Ⅲ－11　表面清掃 …… 27
図版Ⅲ－12　伐採作業 …… 27
図版Ⅲ－13　伐採作業 …… 28
図版Ⅲ－14　草木の搬出 …… 28
図版Ⅲ－15　切り通しトレンチ伐根作業 …… 29
図版Ⅲ－16　切り通しトレンチ表土掘削① …… 29
図版Ⅲ－17　切り通しトレンチ　表土掘削② …… 30
図版Ⅲ－18　切り通しトレンチ　掘削作業 …… 30
図版Ⅲ－19　切り通しトレンチ　掘削作業 …… 31
図版Ⅲ－20　切り通しトレンチⅢ層 遺物検出状況① …… 31
図版Ⅲ－21　切り通しトレンチⅢ層 遺物検出状況② …… 32
図版Ⅲ－22　切り通しトレンチⅢ層 遺物検出状況③ …… 32
図版Ⅲ－23　切り通しトレンチ 掘り出された岩盤 …… 33
図版Ⅲ－24　切り通しトレンチ 岩盤検出状況① …… 33
図版Ⅲ－25　切り通しトレンチ 岩盤検出状況② …… 34
図版Ⅲ－26　切り通しトレンチ　層序確認作業 …… 34
図版Ⅲ－27　切り通しトレンチ半截状況南壁① …… 35
図版Ⅲ－28　切り通しトレンチ半截状況北壁① …… 35
図版Ⅲ－29　切り通しトレンチ半截状況北壁② …… 36
図版Ⅲ－30　切り通しトレンチ半截状況北壁③ …… 36
図版Ⅲ－31　切り通しトレンチ半截状況北壁④ …… 37
図版Ⅲ－32　切り通しトレンチ半截状況北壁⑤ …… 37
図版Ⅲ－33　切り通しトレンチ　掘削作業① …… 38
図版Ⅲ－34　切り通しトレンチ　掘削作業② …… 38
図版Ⅲ－35　切り通しトレンチ　完掘状況平面 …… 39
図版Ⅲ－36　切り通しトレンチ　完掘状況南壁 …… 39
図版Ⅲ－37　切り通しトレンチ　完掘状況北壁 …… 40
図版Ⅲ－38　切り通しトレンチ　出土遺物 …… 40
図版Ⅲ－39　並松街道側　掘削前状況 …… 41
図版Ⅲ－40　並松街道側　表土掘削 …… 41
図版Ⅲ－41　並松街道側　伐根作業 …… 42
図版Ⅲ－42　並松街道側　表土掘削 …… 42
図版Ⅲ－43　並松街道側　表土掘削状況 …… 43
図版Ⅲ－44　並松街道側岩盤　鍾乳洞部分 …… 43
図版Ⅲ－45　鍾乳石 …… 44
図版Ⅲ－46　北側トレンチ　掘削作業状況① …… 44
図版Ⅲ－47　北側トレンチ　掘削作業状況② …… 45
図版Ⅲ－48　北側トレンチ　切り株検出状況① …… 45
図版Ⅲ－49　北側トレンチ　切り株検出状況② …… 46
図版Ⅲ－50　北側トレンチ　切り株確認作業 …… 46
図版Ⅲ－51　北側トレンチ　完掘状況西壁 …… 47
図版Ⅲ－52　北側トレンチ　完掘状況南壁 …… 47
図版Ⅲ－53　北側トレンチ　完掘状況北壁 …… 48
図版Ⅲ－54　完掘状況（南より） …… 48

図版目次

図版Ⅲ‐55　完掘状況（北より）　…… 49
図版Ⅲ‐56　完掘状況東より　…… 49
図版Ⅲ‐57　沖縄産無釉陶器
(甕 1、擂鉢 2、壺 3）. 陶質土器 (鉢 4）　‥ 51
図版Ⅲ‐58　沖縄産施釉陶器（碗 5、6、13. 火入 7、9、14、
鉢 8. 酒器 10、11. 急須 12)　…… 52
図版Ⅲ‐59　本土産磁器 (碗 15 ～ 21）…… 53
図版Ⅲ‐60　本土産磁器（小碗 22 ～ 25. 小杯 26.27.
火入 28. 袋物 29. 急須 30) …… 54
図版Ⅲ‐61　本土産陶磁器（皿 31 ～ 36. 蓋 36)　‥‥ 55
図版Ⅲ‐62　ガラス製品（39 ～ 48)・銭貨（49) ‥‥ 56
図版Ⅳ‐１　炭化材　…… 70
図版Ⅴ‐１　調査前：比嘉小の東の切り通し
（ヒジャグヮーヌアガリヌワイトゥイ）‥‥ 71

挿表目次

第Ⅲ‐１表　試掘調査集計表　…… 16
第Ⅲ‐２表　基本層序表　…… 17
第Ⅲ‐３表　佐真下ゲート前遺物観察表 - １　…… 58
第Ⅲ‐４表　佐真下ゲート前遺物観察表 - ２　…… 59
第Ⅲ‐５表　佐真下ゲート前遺物観察表 - ３　…… 60
第Ⅲ‐６表　佐真下ゲート前遺物観察表 - ４　…… 61
第Ⅲ‐７表　佐真下ゲート集計表 - １ …… 62
第Ⅲ‐８表　佐真下ゲート集計表 - ２ …… 63
第Ⅲ‐９表　佐真下ゲート集計表 - ３ …… 64
第Ⅲ‐10 表　佐真下ゲート集計表 - ４　…… 65
第Ⅲ‐11 表　佐真下ゲート集計表 - ５　…… 66
第Ⅴ‐１表　放射性炭素年代測定結果　…… 68

第Ⅰ章　事業概要

第１節　調査に至る経緯

佐真下ゲート前道路整備等に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査事業（以下当該事業）は、市道 11 号道路整備事業に伴うものである。当該地は宜野湾市道 11 号を整備するため、平成 30 年 12 月 21 日に第 2 (佐真下) ゲート付近の 980 ㎡土地を共同使用することについて、日米合同委員会の承認を得たため、沖縄防衛局による支障除去が行われることとなった。当該地は宜野湾並松街道が所在することから令和元年 5 月に試掘調査を実施、その結果佐真下屋取古集落遺跡が新規に発見されたことから令和元年度 11 月から緊急発掘調査を実施することとなった 。

第２節　調査体制

佐真下ゲート前道路整備等に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査は令和元（平成 31）年度に実施し、資料整理及び報告書作成に係る整理業務は令和２～４年度に実施した。その調査体制は下記の通りである。

事業主体	沖縄県宜野湾市教育委員会		
事業責任者	教育長		知念　春美（令和元～３年度）
	〃		仲村　宗男（令和４年度）
事業総括	教育部	教育部長	比嘉　　透（令和元年度）
	〃	〃	嘉手納貴子（令和２～４年度）
	〃	教育次長	真志喜若子（令和元～３年度）
	〃	〃	宮城　葉子（令和４年度）
	文化課	文化課長	比嘉　　洋（令和元～２年度）
	〃	〃	津波古良幸（令和３年度）
	〃	〃	浜里　吉彦（令和４年度）
事業事務	〃	文化財保護係長	仲地　真俊（令和元～２年度）
	〃	〃	長濱　健起（令和２年度）
	〃	〃	比嘉　高志（令和３～４年度）
	〃	文化財保護係担当主査	長濱　健起（令和元～３年度）
	〃	〃	伊藤　　圭（令和４年度）
	〃	文化財保護係主任主事	仲村　　毅（令和元～４年度）
	〃	〃	森永　穣英（令和４年度）
	〃	〃	田中　　梓（令和元～３年度）
	〃	〃	金城　りお（令和２～４年度）
	〃	文化財保護係主事	金城　りお（令和元年度）
	〃	〃	末吉　飛鳥（令和２～４年度）
調査業務	〃	文化財保護係長	仲地　真俊（令和元年度）
	〃	文化財保護係主任主事	長濱　健起（令和元年度）
資料整理業務	〃	文化財保護係長	仲地　真俊（令和２年度）

資料整理業務	〃	文化財保護係長	長濱　健起（令和２年度）
	〃	〃	比嘉　高志（令和３～４年度）
	〃	文化財保護係担当主査	長濱　健起（令和２～３年度）
	〃	〃	伊藤　　圭（令和４年度）
	〃	文化財保護係担主任主事	金城　りお（令和２～４年度）
	〃	会計年度任用職員	比嘉小百合（令和３～４年度）

委託業務

令和元年度　発掘調査支援業務委託　㈱島田組　宜野湾営業所

令和３年度　パリノ・サーヴェイ株式会社　沖縄支店

令和３年度　資料整理業務委託　㈱島田組　宜野湾営業所

指導及び調査協力

調査指導及び調査協力として下記の方々にご指導、ご協力を頂いた。

沖縄防衛局管理部返還対策課

株式会社埋蔵文化財サポートシステム

第３節　調査の経過

令和元年 11 月 5 日 (火)　調査開始。

令和元年 11 月 6 日 (水)　基準点・水準点の測量を行い調査地内に新点を設置した。

令和元年 11 月 7 日 (木)　岩盤上の草刈りが概ね終了。

令和元年 11 月 19 日 (火) 掘削申請の許可が下りる。

令和元年 11 月 25 日 (月) 北端トレンチの掘削作業開始。

令和元年 11 月 27 日 (水) 北端トレンチで近世以降の瓦・陶磁器が出土。

令和元年 11 月 28 日 (木) 道路沿いで岩盤検出作業。
北端トレンチで掘削作業。
-80 ㎝まで下げたところでいったん掘削を終了した。

令和元年 11 月 29 日 (金) 切り通しトレンチの掘下げ開始。

令和元年 12 月 3 日 (火)　切り通しトレンチの掘下げ。
西側は -70 ｃｍで岩盤を確認。

令和元年 12 月 4 日 (水)　切り通しトレンチでは近世～戦前の包含層から沖縄産施釉陶器や本土産磁器が多数出土。
赤土流失防止のために土嚢で小堤を作る。

令和元年 12 月 13 日（金）切り通しトレンチの東西方向への掘削は概ね終了。
南北方向に拡張を行う予定としている。

令和元年 12 月 16 日（月）切り通しトレンチの東西方向の壁面の清掃・分層を行う。
北端トレンチで - １ｍ下より削平されたと見られる岩盤を検出。道路側岩盤で鍾乳洞部分の検出作業を行う。

令和元年 12 月 17 日（火）切り通しトレンチの北壁・東壁の写真撮影および図化を行う。トレンチ拡張に着手。

令和元年 12 月 18 日（水）切り通しを拡張、岩盤の検出完了。

図版Ⅰ－１　本調査作業状況

令和元年 12 月 19 日（木）切り通しトレンチの４層下面まで検出が完了。北端トレンチの北壁・西壁の写真撮影・図化を行った。

令和元年 12 月 23 日（月）全体平面図・壁面図等のオルソ撮影が終了。調査区南側の岩盤はあまり削平を受けていないことを確認。

令和元年 12 月 24 日（水）記録写真撮影。

令和元年 12 月 25 日（水）岩盤に残る加工痕の写真撮影。撤収作業。

令和元年 12 月 26 日（木）切り通しトレンチの完掘状況撮影。撤収作業。調査を完了した。

図版Ⅰ－２　本調査作業状況

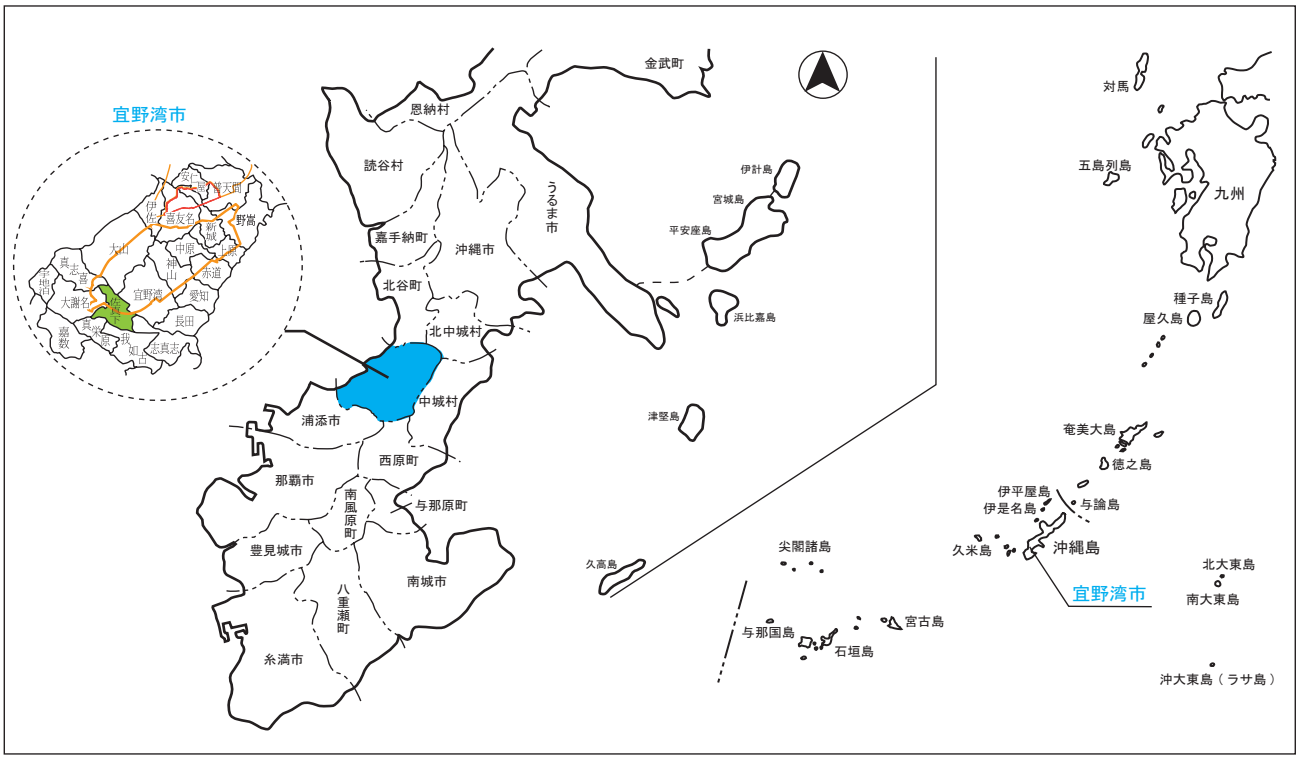
第Ⅱ章　位置と環境

第１節　地理的環境

宜野湾市は、沖縄本島の中部西海岸にあって、東シナ海に面し、北は北谷町、北東は北中城村、東は中城村、東南には西原町、南は浦添市が隣接する。市域の総面積は、約 19.8 ㎢で、市域北西にはキャンプ瑞慶覧、中央には普天間飛行場基地が占有し、米軍基地の面積は市面積の 29.4%を占めている（2020 年 3 月時点）。市域には沖縄本島を縦断する国道 58 号や 330 号が通り、市域を横断する道路は沖縄自動車道北中城 IC・西原 IC へのアクセス道路としても利用され本島北部、中部と南部地域を繋ぐ交通の要となっている。

本市の主な地質は琉球石灰岩で、土壌はクチャと呼ばれる島尻層群を基盤としている。不透水層の島尻層の上に不整合に琉球石灰岩が覆っており、その境界を地下水が流れ湧泉として湧き出している。また、東シナ海に面した海岸低地である西側は、砂層である沖積層から成り、内陸部の丘陵地では島尻層群が風化してできたジャーガル土壌や台地上には島尻マージと呼ばれる土壌が広く分布している。

地形をみると、西側の海岸から東側の内陸に向かって雛壇状の海岸段丘から成り、市域の段丘は中位段丘（約 20 万年前に形成）と低位段丘（約 12 万年前に形成）に大別され、それぞれに下位面と上位面に区別する４つの段丘面を有している（宜野湾市市史編集委員会編 2000）。低位段丘下位面（第１面）は、比屋良川河口から宇地泊、真志喜、大山、伊佐に連なる標高 3 ～ 30 mの海岸低地である。低位上位面（第 2 面）は、国道 58 号周辺と普天間基地に挟まれた標高 30 ～ 40 mの石灰岩段丘で、中位段丘下位面（第 3 面）は、国道 330 号周辺からなる標高 90 m以上の高地となる。



第Ⅱ－１図　宜野湾市の位置

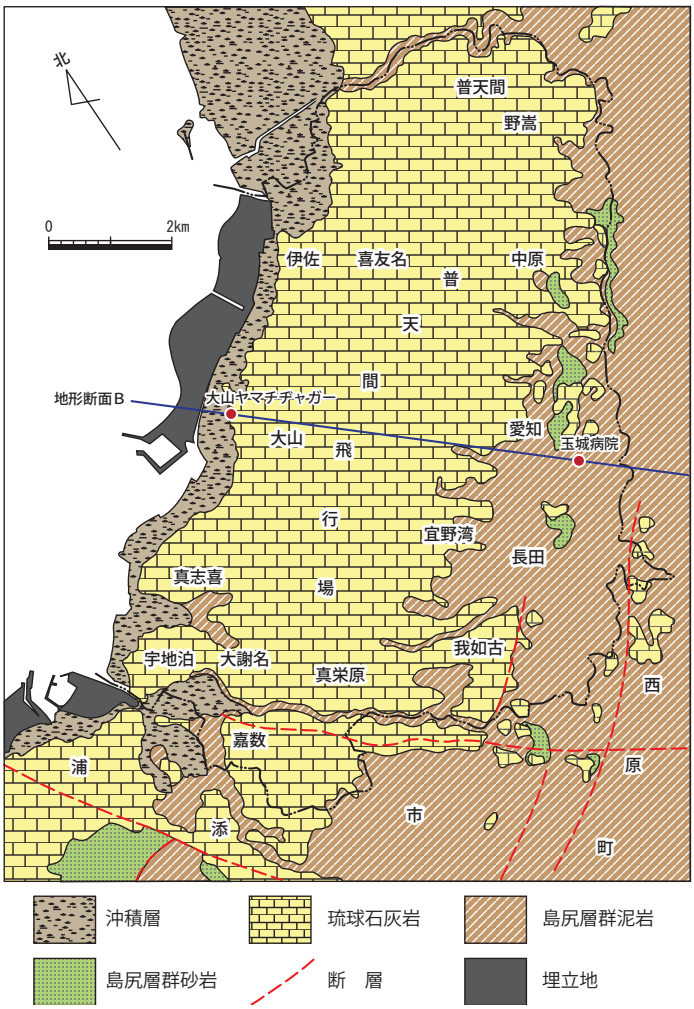
また、市内には133か所の洞穴があり、県内でも有数の洞穴地帯といえる。このような洞穴は石灰岩が雨などの影響を受けて作り上げた「カルスト地形」の一つである。
市内では鍾乳洞、ドリーネ、ウバーレなどのカルスト地形が作りだす自然が多くみられる。また、東側の中位段丘面で降った雨水 は、地下水として流れながらカルスト地形を作り出し、西側の低位段丘面で琉球石灰岩と島尻層群の境界から湧水として流れ出している。その量は豊富で、戦前の西海岸一帯には湧水を利用した水田が広がっていた。

佐真下屋取古集落が所在する地域は石灰岩台地上にあり、石灰岩洞窟（ガマ）が多い地域でもある。そのため雨が降っても水がたまらずにガマに吸い込まれていくという特徴があり、生活用水はガマの中に降りて水汲みをしていたという。

第２節　歴史的環境

沖縄諸島に人々が住み始めたのは今から３万年程前に遡り、旧石器時代と呼称される時代で宜野湾市においても、工事中に開口した大山名利瀬原の洞穴から「大山同人」称される更新世（200～１万年前）に由来する20歳前後の男性の下顎骨が発見されている（高宮ほか1975、鈴木1975）。また、普天間宮洞穴遺跡等では、リュウキュウムカシキョン等のシカ類の化石が多数発見されている。（宜野湾市教育委員会1989）

現在からおよそ6000～7000年前から1000～800年前までの数千年の及ぶ時代を沖縄貝塚時代と称する狩猟・採集の時代となる。沖縄貝塚時代は、遺跡の立地・出土遺物等の違いから早期・前期・中期・後期に大別されている。前期は市域を含め、沖縄諸島域に当時の土器型式が広く分布していることから、定着的な集団により各地域に遺跡が形成される時期と考えられる。



第Ⅱ－２図　宜野湾市の地質図

貝塚時代中期は、拠点的な大規模集落が平地に展開し、小規模遺跡がその周縁に点在しており市域では、西側琉球石灰岩地帯で顕著にみられる。後期には、前述の西側琉球石灰岩地帯に加えて、地にも居住域が拡散しており、その規模も一律的に大きくなっていくようである。（宜野湾市教育委員会1989）

12世紀から15世紀に及ぶグスク時代は、沖縄において初めて農耕を基礎とする社会が形成・発達した時期である。市域のグスク時代の遺跡は、迫地や河川流域の高所斜面流域の丘陵斜面・段丘縁の高

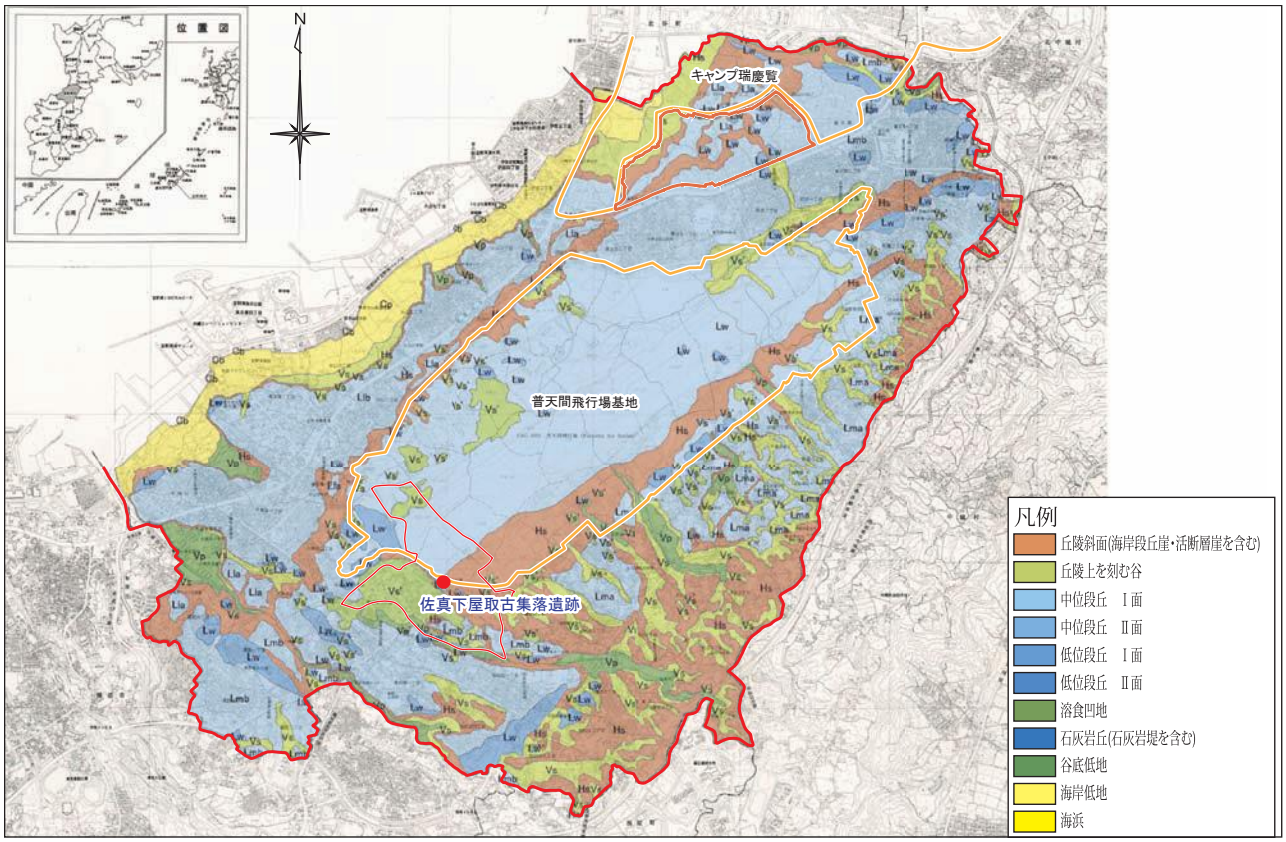
所に立地しており、市域の伝統的集落である近世の“村”の形態がこの時期に形成され始める。生産的農耕社会を基盤とした社会が展開されていく中で、農耕の基盤である土地・その生産を支える道具の入手や制作・同時期に展開された日本や中国・朝鮮・東アジア地域との交易などを通して各地域の集団は共同化したと考えられ、その中から“按司”と称される在地支配者層が出現する。

按司を中心とした各地域の集団は、相互に抗争を繰り返しながら次第に淘汰され、14 世紀ごろには、中山・山北・南山の 3 つの小国家が成立する。市の真志喜区に所在する県指定文化財の森の川には、中山の王として 1372 年に明朝に朝貢した「察度」の出自が記された石碑が残されている。その後 1429 年には尚巴志が三山を統一し、琉球王国誕生へと至る。グスク時代から第二尚氏王朝前期の 1609 年島津侵入までを歴史学では古琉球と称し、中世に相当する。

琉球王国は島津の支配を受けながらも王国としての体裁は保ちつつ、中国（明・清）との交易を行っていた。近世琉球と称される時代である。市域の集落は、碁盤型の集落と屋取集落が存在していた。この集落形態は、近世に開始され、耕作地を増やすために小規模に転々と存在した集落を一箇所に集め、平地を田畑へと開墾していった。さらに 18 世紀以降、首里や那覇の士族の移住により屋取集落が形成されていった。

近代以降は、1872（明治 5）年に琉球藩、1879（明治 12）年には沖縄県の設置が強行され、1881（明治 14）年 6 月には中頭一帯を管轄する中頭役所が宜野湾間切番所内に併設された（宜野湾市史編集委員会編 1985）。その後、中頭郡教育事務所、中頭郡組合農事試験場などの官公署が相次いで設置されたことにより市域は本島中部地域の政治・経済・教育の中心となった。

1902（明治 35）年には首里から普天間に至る普天間街道、1922（大正 11）年には県営鉄道嘉手



第Ⅱ−３図　宜野湾市地形分布図

納線（軽便鉄道）が開通した。

1908（明治 41）年の「沖縄県及び島嶼町村制」施行により従来の間切は町・村に、村は字に改められ、宜野湾間切は宜野湾村となった。

1945(昭和 20) 年 4 月 1 日、中部西海岸に上陸した米軍に対する日本軍の前線基地として、本市域も壊滅的な打撃を被り、さらには戦後の軍用地接収と度重なる基地造成によって市域の景観は大きく変貌することとなった。他地域に比べ僅かに焼失を免れた野嵩地区が住民の収容所の一つとなった。その後、1946（昭和 21）年 9 月以降、故地ないしはその近傍に帰住が許可され、社会基盤の復活が果たされると米軍基地関連産業の活況により市域の人口も急増した。1962（昭和 37）年 7 月 1 日には村から市に昇格した。

第３節　佐真下集落の概要

佐真下は宜野湾市の南部に位置している。1939（昭和）年に宜野湾・我如古・嘉数・大謝名にまたがるヤードゥイが真栄原として分離独立し、その後 1943（昭和）年にジノーンヌメー･ナガサク地域が真栄原から分離独立し、佐真下となっている。

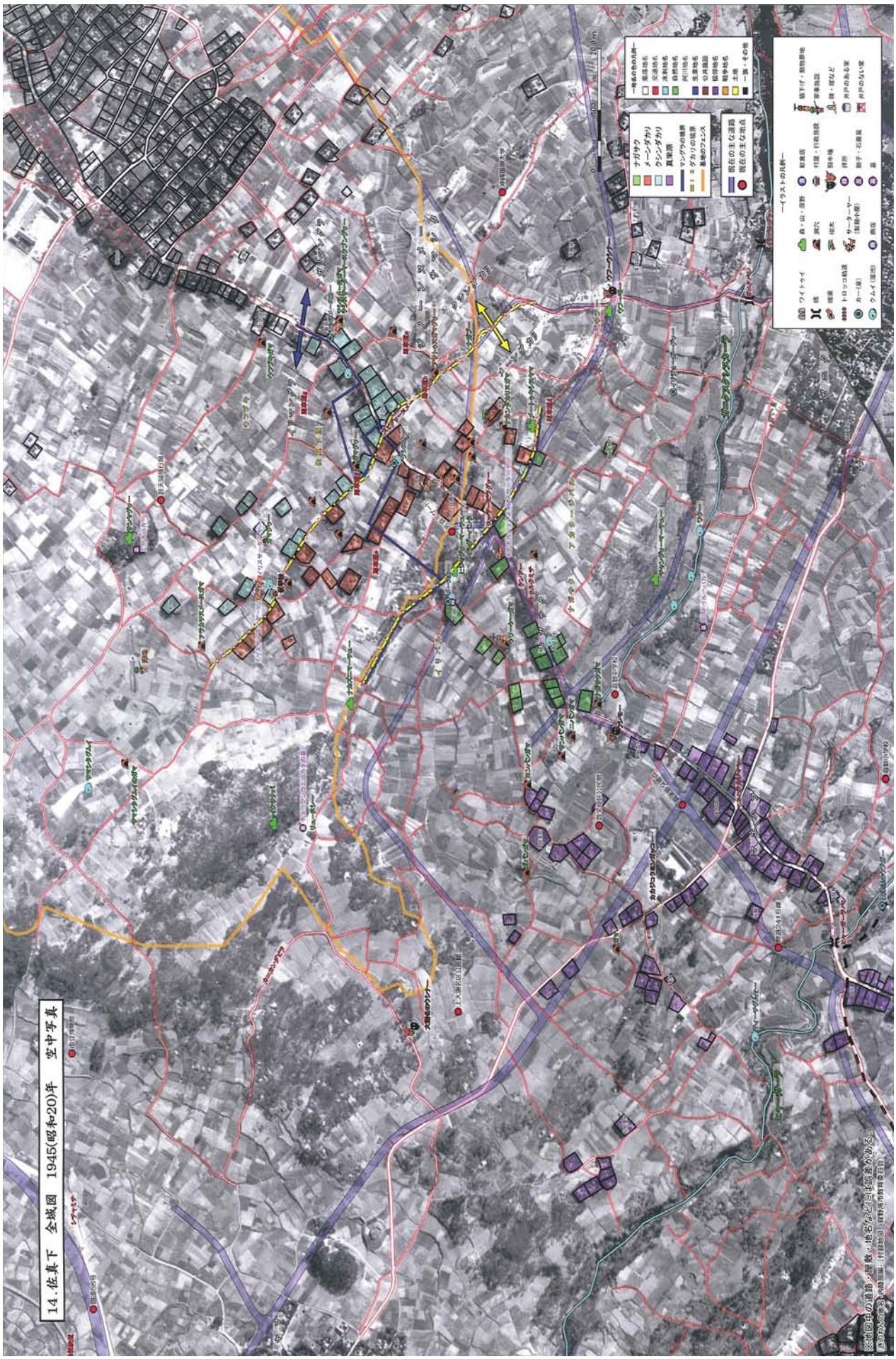
戦前の佐真下は石灰岩が発達した地形が特徴的で、ガマが多くあった。
これらのガマは水の吸い込み口となり、水がたまりにくい地域でもあった。湧水が湧き出るところはなく、ガマの中に降りて水を汲むタイプであった。当時の主な生業はサトウキビでサーターヤーが 6 か所あり、自家精糖も行われていた。

現在、大部分は普天間飛行場となっており、行政区としては真栄原区となっている。先の戦争で部落を追われた住民たちは 1949（昭和）年に真栄原地域に移動を余儀なくされた。
そこから戻ってこれたのが 1955（昭和）年頃であったが、部落の大部分が普天間飛行場に土地を接収されたため、そのまま我如古・真栄原に残った住民も多い。

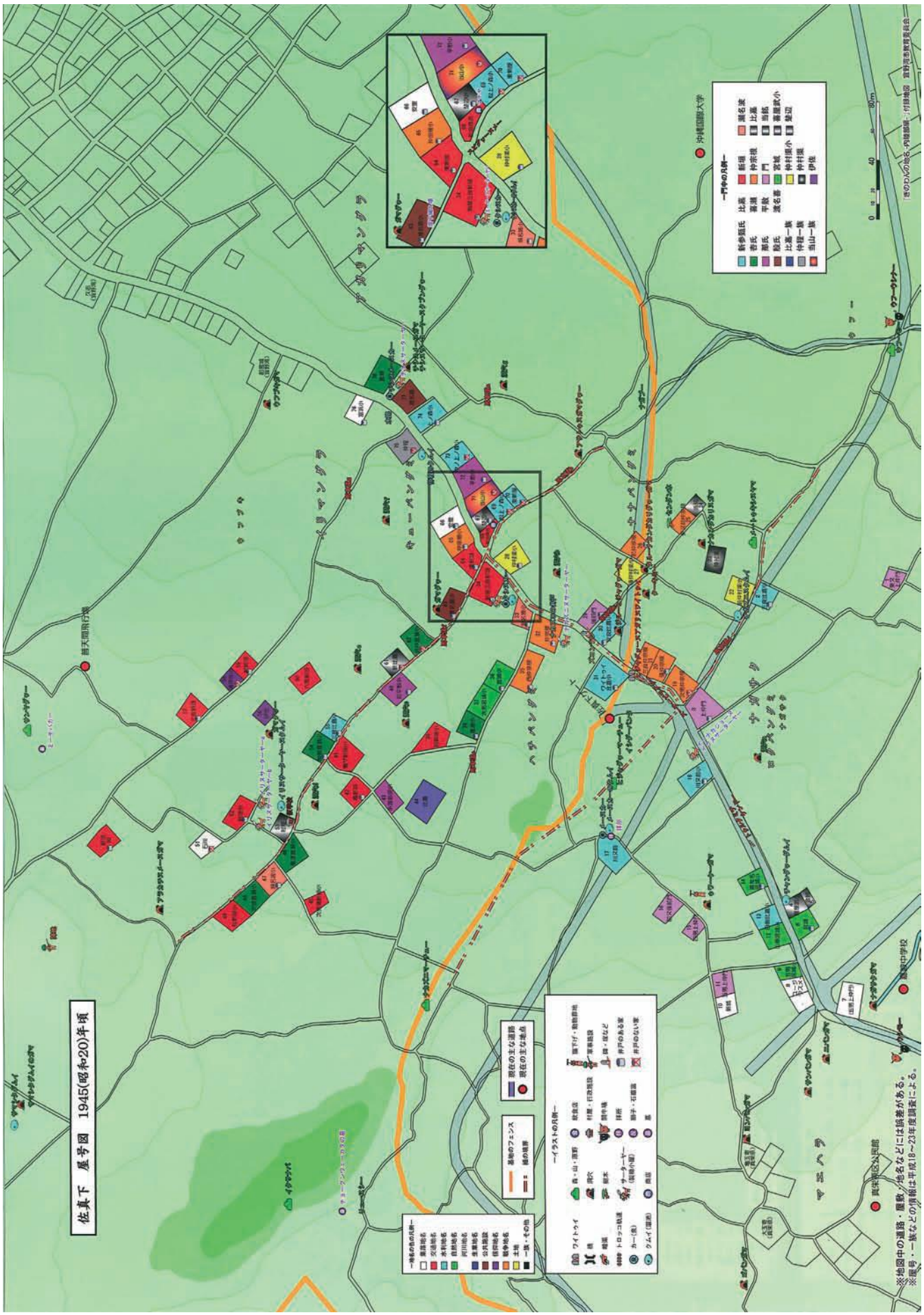
戦前の様子を伝える場所は少ないが、普天間飛行場の佐真下ゲートの隣にある佐真下公園にはメーヌカーと呼ばれるウブガーが今でも残っており、佐真下郷友会によって行事が執り行われている。

図版Ⅱ－１　メーヌカー

図版Ⅱ－２　ウブガー



第Ⅱ－４図　昭和 20 年航空写真



第Ⅱ－５図　佐真下集落屋号図（1945 年）

第Ⅲ章　発掘調査の成果

第１節　試掘調査の経過

１．調査区の概要

本調査に先駆けて令和元（平成 31）年５月９日～ 14 日まで試掘調査が行われた。

試掘調査は沖縄防衛局が株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託し、宜野湾市教育委員会立会いの下で行われた。調査区は佐真下ゲートの共同使用範囲で行われ、試掘坑は TP1 ～ TP4 の４箇所を設定した。

また、試掘と合わせて周辺の草木の伐開と、現地踏査も行われた。試掘調査では明確な遺構は確認されなかったが、現地踏査で、調査区の東側に面する岩盤に切り通し（ワイトゥイ）や、宜野湾並松街道に由来する遺構が残存することが確認された。

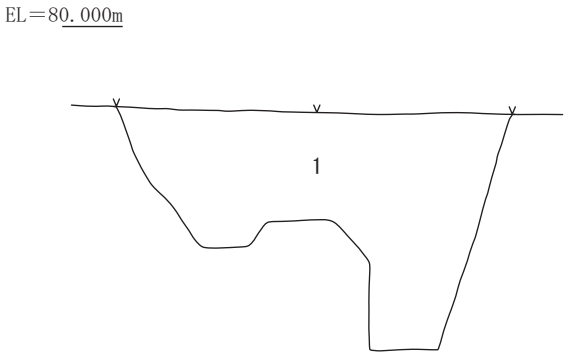
第Ⅲ－１図　佐真下屋取古集落（拡大）

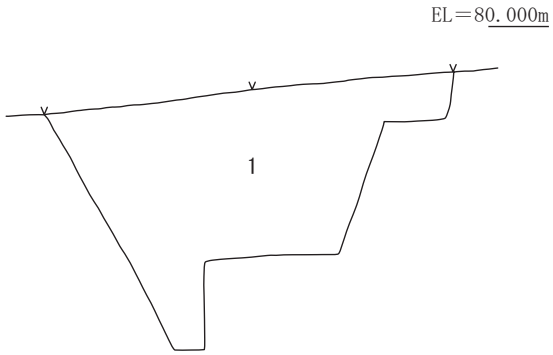
試掘調査と現地踏査の結果から「佐真下屋取古集落遺跡」が新規に確認されたため、沖縄防衛局と協議を行った。協議の結果、岩盤は開発工事によって削られることが避けられないことから、同年 11 月に緊急発掘調査を行うこととなった。

図版Ⅲ－１　佐真下ゲート前（試掘調査区方向より）

北壁

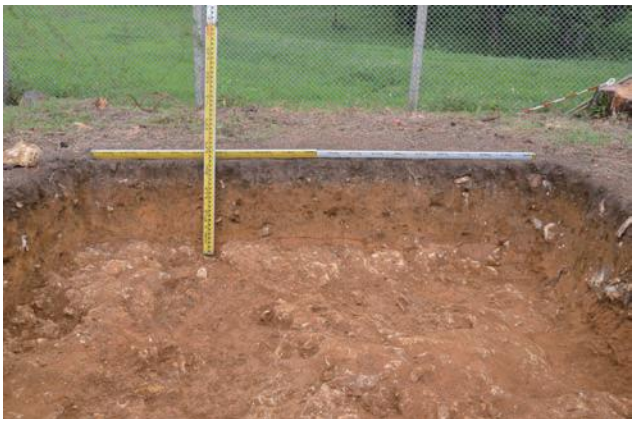
東壁



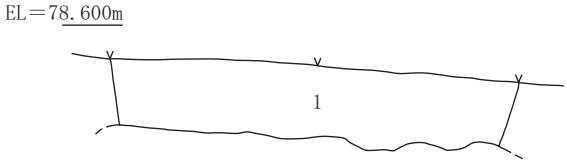


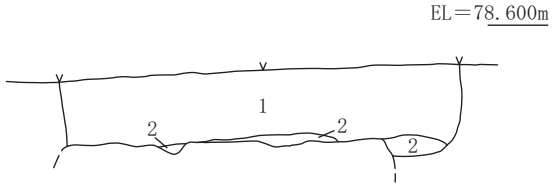
フテ 77 － C8 －ソ

西壁



北壁



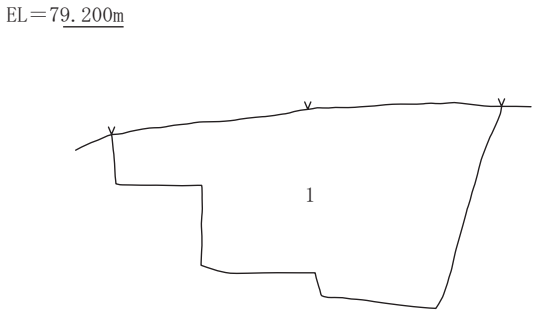


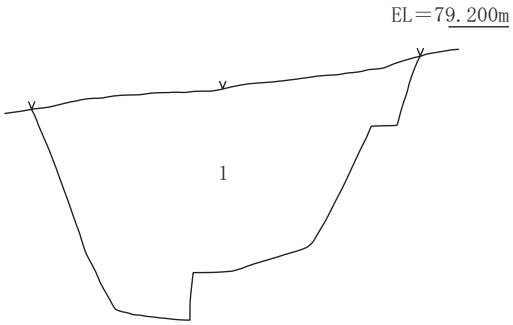
フテ 77 － C9 －ス

第Ⅲ－２図　試掘調査 断面図

西壁

北壁

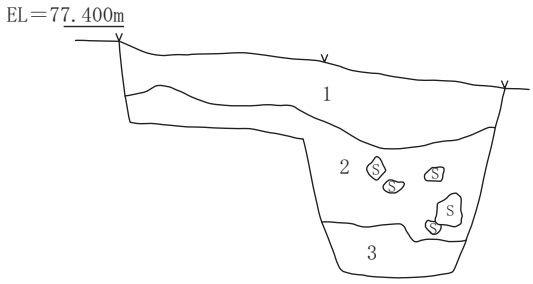


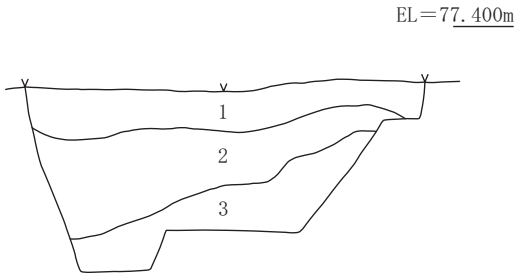


フテ 77 － C9 －ニ

東壁

南壁





フテ 77 － D9 －ク

0　1m
(S=1/40)

第Ⅲ－３図　試掘調査 断面図

図版Ⅲ－２　試掘調査　ワイトゥイ

試掘調査近景（略西より）

試掘調査遠景（略西より）

試掘調査遠景（略西より）

試掘調査遠景（略南より）

図版Ⅲ－３　試掘調査状況

試掘調査遠景（略南より）

試掘調査遠景（略西より）

試掘調査遠景（略南西より）

試掘調査遠景（略南西より）

試掘調査遠景（略南より）

試掘調査遠景（略東より）

試掘調査遠景（略北東より）

試掘調査遠景（略南西より）

図版Ⅲ－４　試掘調査状況

第Ⅲ－１表　試掘調査遺物集計表

種類・産地			出土地	C-8-ソ Ⅰ層	C-9-ス Ⅰ層	C-9-ニ Ⅰ層	D-9-ク Ⅰ層	総計	
沖施	皿	Ⅰ類イ	胴～底		1				1
	酒器	Ⅲ類	口縁				1		1
	瓶		胴部				1		1
	碗？		胴部				1		1
沖　施　合　計					1		3	4	
沖無	擂鉢	Ⅳ類	口～胴	1				1	2
		不明	胴部			1		1	
	甕		胴部			1			1
	不明		胴部		3	1			4
沖　無　合　計				1	3	3		7	
瓦	丸瓦	明朝系	筒部		1				1
	平瓦		広端部		1			1	3
			狭端部			1		1	
			筒部				1	1	
	不明		不明		1				1
瓦　合　計					3	1	1	5	
本磁	小碗	瀬戸・美濃系	口～底			1			1
	碗	砥部産	口～胴		1				1
	小碗	産地不明	胴～底			1			1
本　土　産　磁　器　合　計					1	2		3	
タイル		-	-			1			1
総　計				1	8	7	4	20	

図版Ⅲ－５　試掘調査　出土遺物

第２節　佐真下ゲート前調査の概要

１．本調査の概要

本調査は令和元年 11 月 5 日～ 12 月 26 日まで行われた。調査区はフェンス外ではあるが米軍基地内となっているため、パス申請や立入り申請等を行った。調査開始は 11 月 5 日であるが、掘削申請の許可が下りたのは 11 月 19 日のため、掘削を伴う調査はこの日から開始した。

調査区は岩盤が対象のため、掘削できる地点が限られており、切り通し内と調査区北端の 2 箇所にトレンチを配置した。

12 月 24 日には完掘状況の写真等を取り終え、12 月 26 日に仮設事務所等の撤去をし、発掘調査が完了した。

２．基本層序

Ⅰ層：現代の造成土または客土。

Ⅱ層：近代～現代にかけての堆積土。

Ⅲ層：切り通し造成土。拳大～人頭大の石灰岩礫を多く含む。使用面に近い層と見られる。

Ⅳ層：近代の層。切り通しトレンチでは集落側のみに存在。2 ～ 5 ㎝の石灰岩小礫が多く造成土と見られる。暗褐色土層。

Ⅴ層：切り通しの造成土。石灰岩礫を多く含む。切り通し部分では拳大～人頭大の石灰岩礫を多く含む。

Ⅵ層：地山。

第Ⅲ－２表　基本層序表

基本層序／地区	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅴ層	Ⅵ層
北端トレンチ	1 ～ 3 層	―	―	4 層	―	5・6 層
切り通しトレンチ	1 層	2 層	3 層	4 層	5・6 層	―

３．遺構

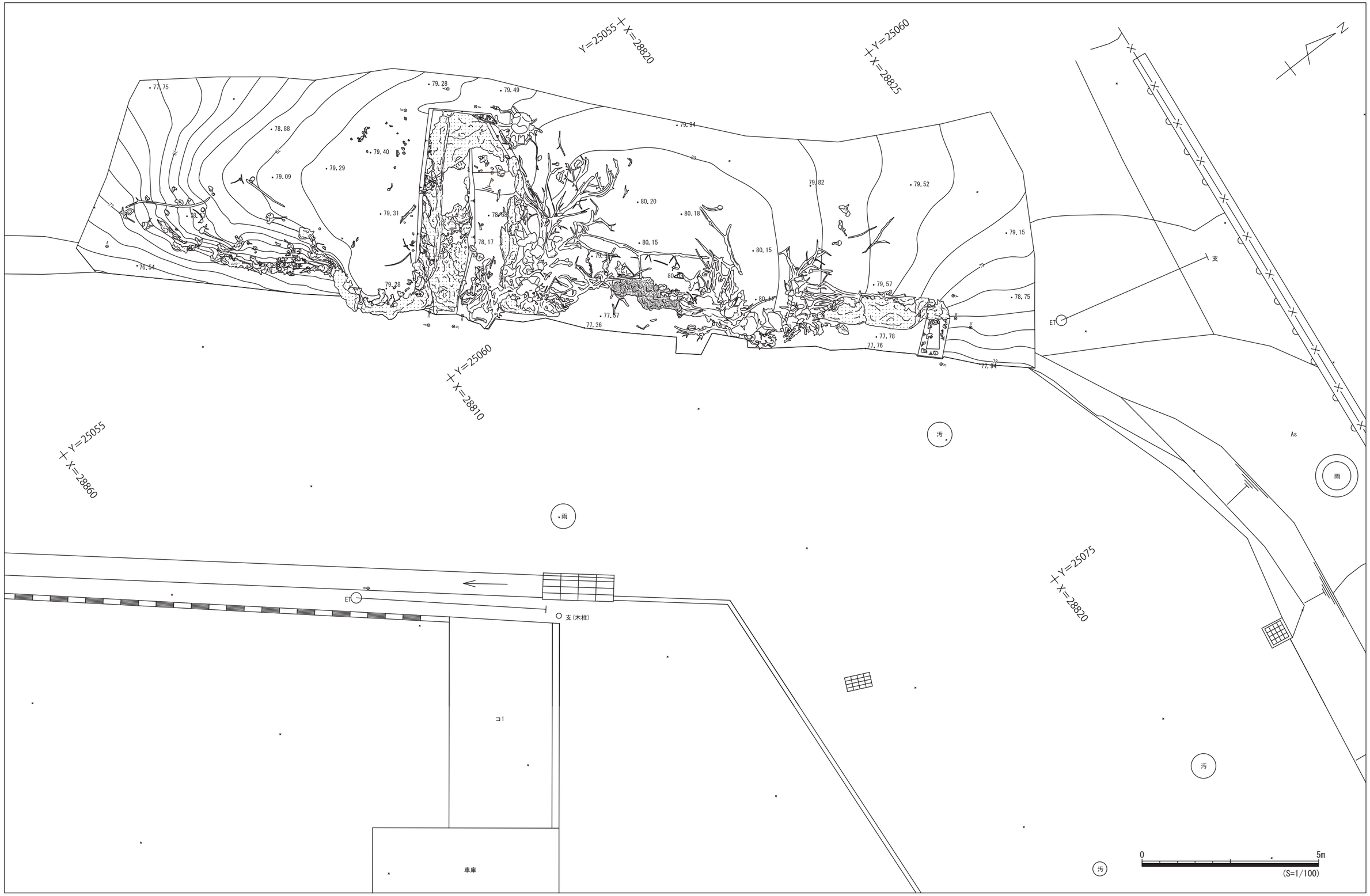
本調査区は切り通し（ワイトゥイ）や宜野湾並松街道沿いの岩盤に加工痕が確認されている。

切り通しは地域で「比嘉小の東の切り通し（ヒジャグゥーヌアガリヌワイトゥイ）」と呼ばれており、調査前に目視でも確認できる状況であった。切り通しは造成土が流れ込んでいたため、切り通しの中にトレンチを設定して確認を行った。切り通しの横幅は約 1.8 m、切り通しを構成している岩盤の高さは高いところで約 2m である。切り通しは一度岩盤付近まで掘削し、拳大～人頭大の礫交じりの土で岩盤の隙間を埋めるように東から西に向けて上がっていく斜面を造っている。一部岩盤を利用して段差も設けられており、歩きやすいように工夫されていると考えられる。切り通しの両側の岩盤の上部は削りだされており、Ⅲ層の上面まで削られていることからⅢ層が使用時の床面と想定される。

並松街道側の岩盤には一部加工痕が残る。加工痕は幅 5cm 程度で、丸ノミで斜めに削られている様子が見られる。また、鍾乳洞の一部が外面に露出しており、街道にせり出した岩盤を削る際に鍾乳洞の一部も削ったと見られる。

図版Ⅲ－６　削り出された岩盤（並松街道側）

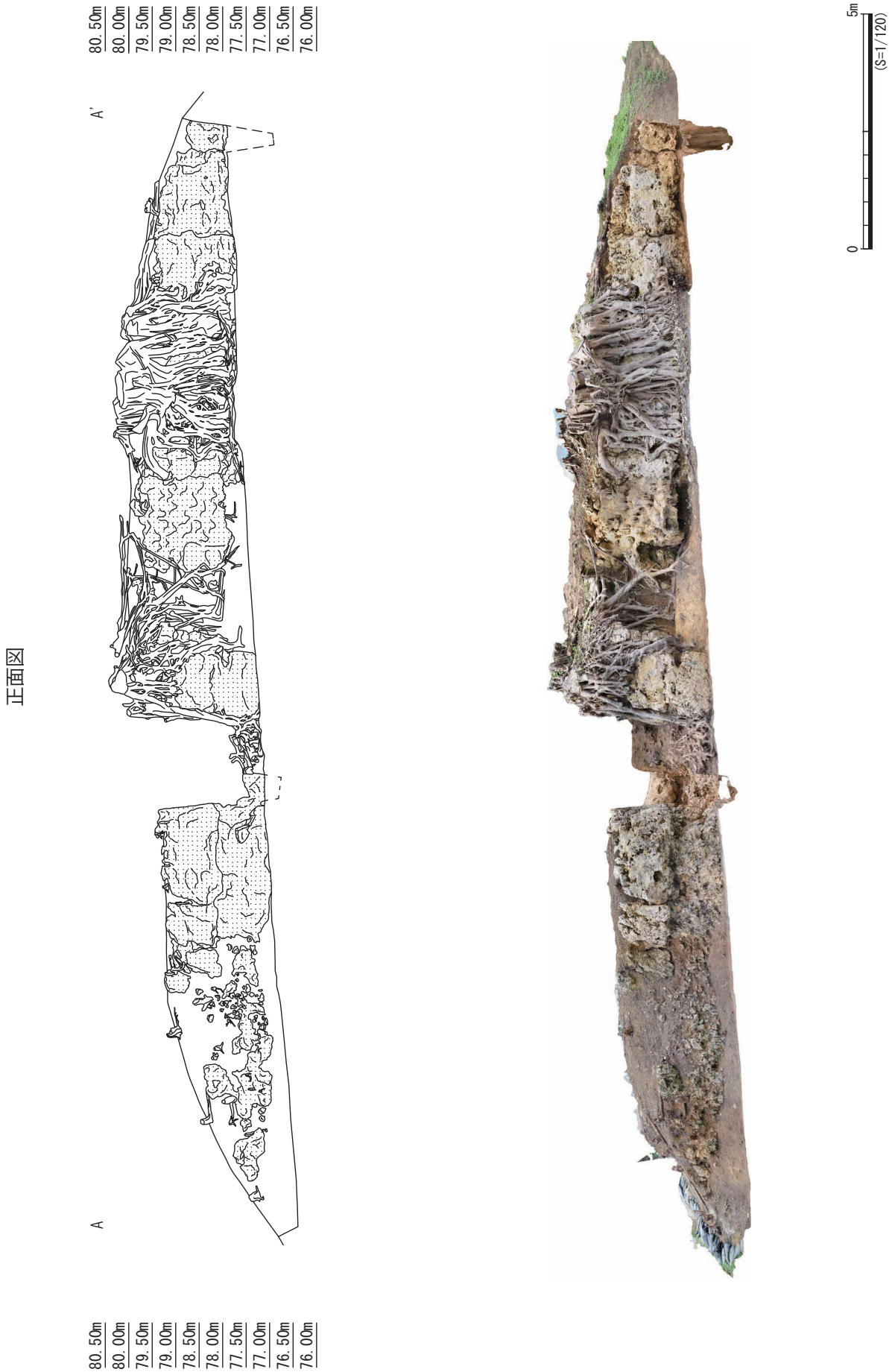
図版Ⅲ－７　岩盤に残る加工痕



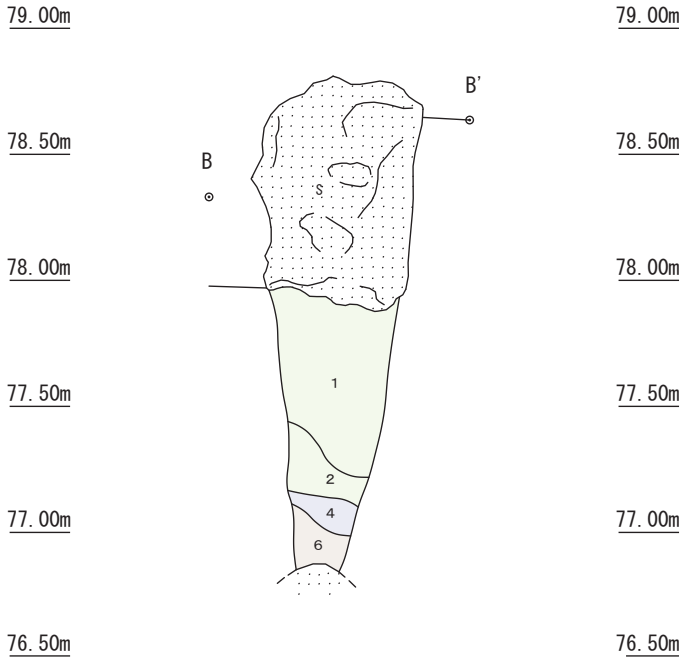
第Ⅲ－４図　調査区全体平面図１

0 5m
(S=1/100)

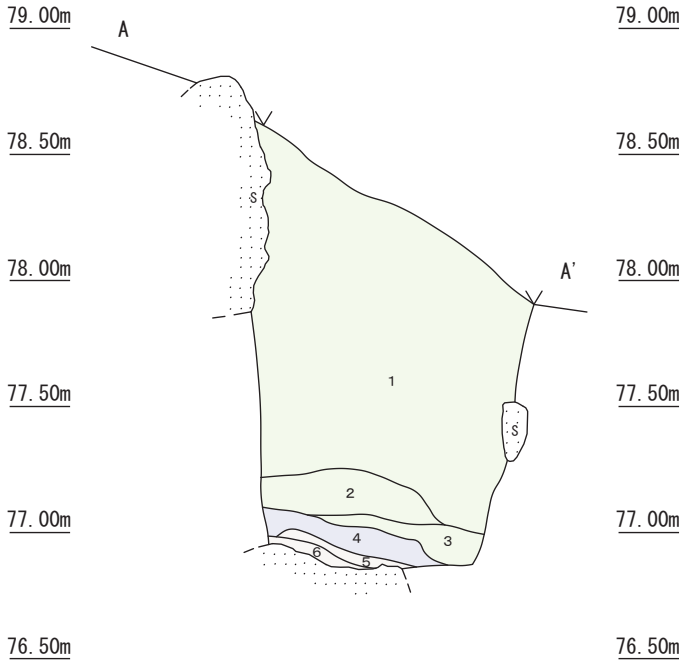
図版Ⅲ－８　調査区全体平面図２


正面図
A
A'
80.50m
80.00m
79.50m
79.00m
78.50m
78.00m
77.50m
77.00m
76.50m
76.00m
0
5m
(S=1/120)

第Ⅲ - ５図　調査区　立面図



西断面



北断面

0　1m
(S=1/30)

第Ⅲ－６図　北端トレンチ壁面図

第Ⅲ - 7図　切り通しトレンチ

図版Ⅲ－９　除草作業

図版Ⅲ－10　除草作業

図版Ⅲ－ 11　表面清掃

図版Ⅲ－ 12　伐根作業

図版Ⅲ－ 13　伐根作業

図版Ⅲ－ 14　草木の搬出

図版Ⅲ－15　切り通しトレンチ伐根作業

図版Ⅲ－16　切り通しトレンチ表土掘削①

図版Ⅲ－17　切り通しトレンチ　表土掘削②

図版Ⅲ－18　切り通しトレンチ　掘削作業

図版Ⅲ－19　切り通しトレンチ　掘削作業

図版Ⅲ－20　切り通しトレンチⅢ層遺物検出状況①

図版Ⅲ－21　切り通しトレンチⅢ層遺物検出状況②

図版Ⅲ－22　切り通しトレンチⅢ層遺物検出状況③

図版Ⅲ－23　切り通しトレンチ　削りだされた岩盤

図版Ⅲ－24　切り通しトレンチ　岩盤検出状況①

図版Ⅲ－25　切り通しトレンチ　岩盤検出状況②

図版Ⅲ－26　切り通しトレンチ　層序確認作業

図版Ⅲ－ 27　切り通しトレンチ半截状況南壁

図版Ⅲ－ 28　切り通しトレンチ半截状況北壁①

図版Ⅲ－ 29　切り通しトレンチ半截状況北壁②

図版Ⅲ－ 30　切り通しトレンチ半截状況北壁③

図版Ⅲ－ 31　切り通しトレンチ半截状況北壁④

図版Ⅲ－ 32　切り通しトレンチ半截状況北壁⑤

図版Ⅲ－ 33　切り通しトレンチ　掘削作業①

図版Ⅲ－ 34　切り通しトレンチ　掘削作業②

図版Ⅲ－35　切り通しトレンチ　完掘状況平面

図版Ⅲ－36　切り通しトレンチ　完掘状況南壁

図版Ⅲ－ 37　切り通しトレンチ　完掘状況北壁

図版Ⅲ -38　切り通しトレンチ　出土遺物

図版Ⅲ－ 39　並松街道側　掘削前状況

図版Ⅲ－ 40　並松街道側　表土掘削

図版Ⅲ－41　並松街道側　伐根作業

図版Ⅲ－42　並松街道側　表土掘削

図版Ⅲ－43　並松街道側　表土掘削状況

図版Ⅲ－44　並松街道側岩盤　鍾乳洞部分

図版Ⅲ－45　鍾乳石

図版Ⅲ－46　北側トレンチ　掘削作業状況①

図版Ⅲ－ 47　北側トレンチ　掘削作業状況②

図版Ⅲ－ 48　北側トレンチ　切り株検出状況①

図版Ⅲ－ 49　北側トレンチ　切り株検出状況②

図版Ⅲ－ 50　北側トレンチ　切り株確認作業

図版Ⅲ－51　北側トレンチ　完掘状況西壁

図版Ⅲ－52　北側トレンチ　完掘状況南壁

図版Ⅲ－53　北側トレンチ　完掘状況北壁

図版Ⅲ－54　完掘状況（南より）

図版Ⅲ－55　完掘状況（北より）

図版Ⅲ－56　完掘状況（東より）

４.遺物

遺物は全体で 726 点出土している。そのうち切り通しトレンチから 580 点と最も多く、北側トレンチは 61 点と少なかった。また表土からも多く近代陶磁器が拾われており、当時調査区周辺に人の生活があったことが想定される。

沖縄産無釉陶器

図版 1 ～ 3 は沖縄産無釉陶器である。全体で 61 点出土しており、表採・表層を除くと切り通しトレンチのⅢ層から 24 点、Ⅳ層から 3 点出土している。ほとんどが胴部の破片で全体を窺える資料は少なかった。壷や甕・擂鉢と見られる器形が出土している。

沖縄産施釉陶器

沖縄産施釉陶器は全体で 86 点出土している。表採・表層を除いて切り通しトレンチのⅢ層から 43 点、Ⅳ層から 4 点出土している。器形は火入・急須・酒器・小碗・碗・鉢などが出土しており、特に碗が多く出土している。出土数はⅢ類が多く 69%をしめている。

本土産磁器

総数は 319 点と最も多い遺物である。その中でも切り通しトレンチのⅢ層から 198 点と一番多く出土している。器形は小碗が一番多く、産地が分かるものでは瀬戸・美濃焼が一番多く出土している。

瓦

瓦は総数 117 点出土している北端トレンチ周辺で多く出土している。ほとんどが表層の出土ではあるが、周辺に赤瓦を使用した建物があったことが窺える。

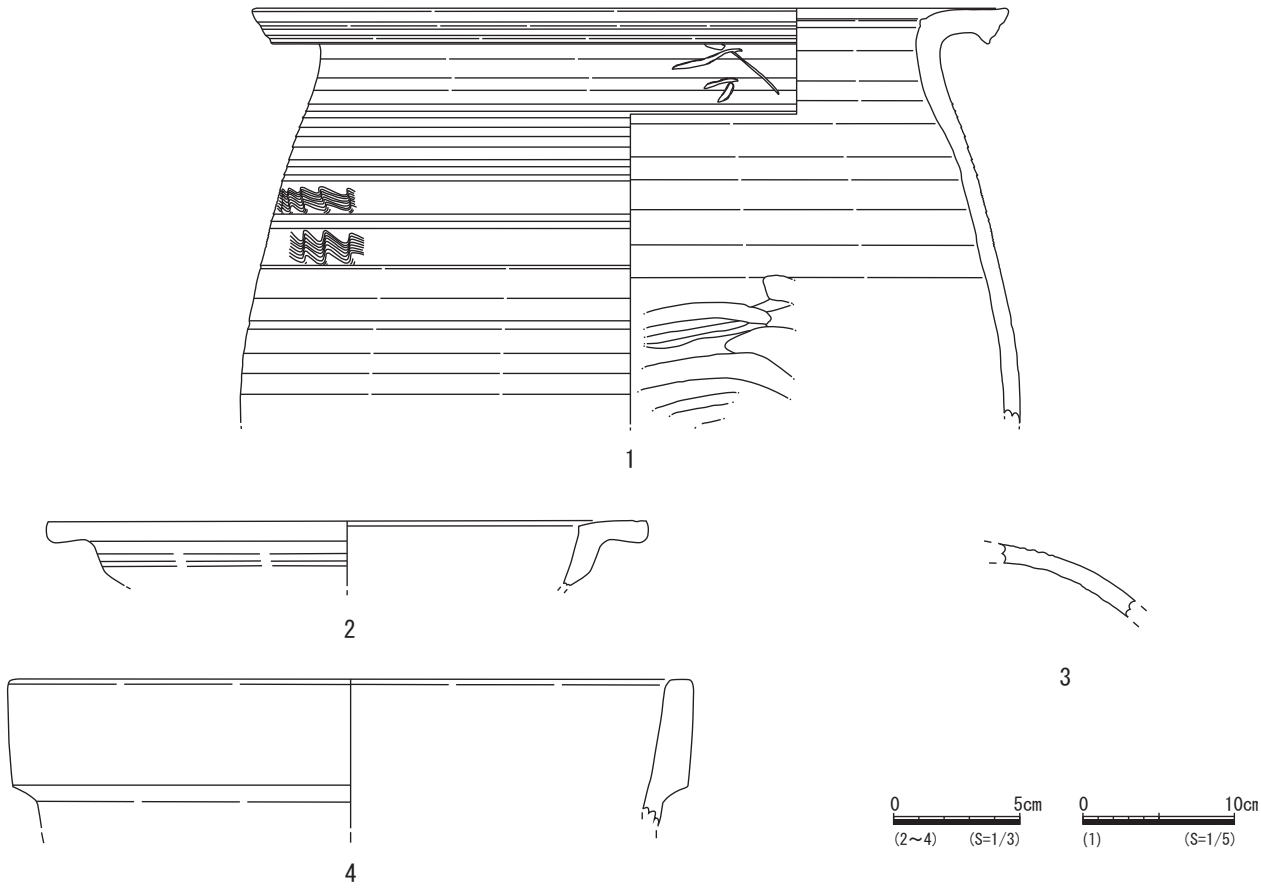
ガラス製品

ガラス製品は 72 点出土している。ランプの笠や化粧瓶が多くみられる。切り通しトレンチⅢ層で全体の 79%にあたる 57 点が出土している。エンボスが見られる製品もあり、図版番号 42 には「ゲッソ液」の文字や図版番号 43 には「平尾分六店」などの文字が見られる。

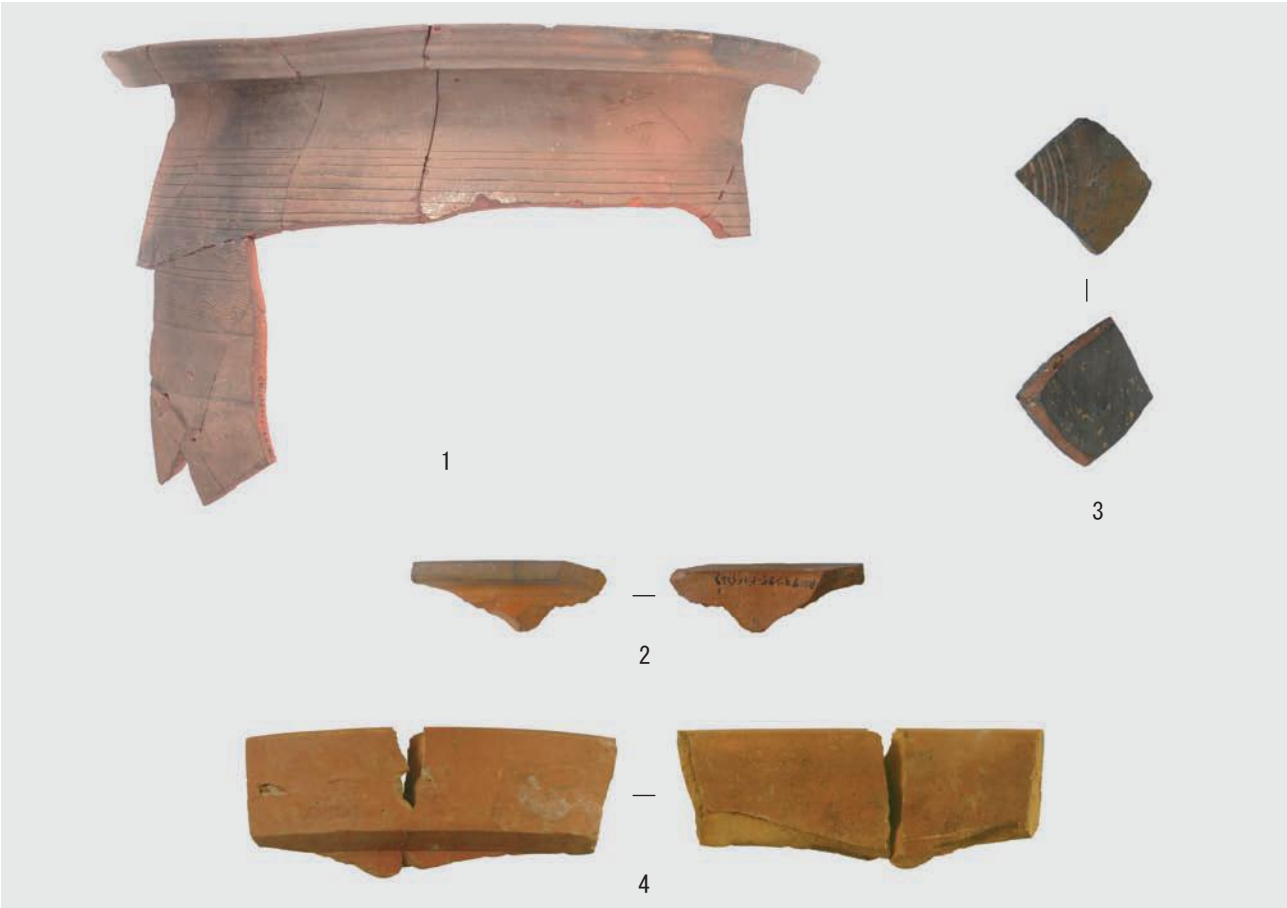
遺物は概ね近現代の資料が主体となっており、特に遺物が多いのは切り通しトレンチのⅢ層で、全体の 53%を占めている。Ⅲ層は戦前から戦後までの使用面にあたる層である。戦前と戦後の線が明確に引けなかったため一括資料となっており、遺物は近代～現代まで幅広く出土しているが、遺物の主体は戦前の使用されていたと見られる陶磁器がやガラス瓶が中心となっている。特徴としては本土産磁器（39%）が一番多く、次に薬瓶などのガラス製品（29%）、沖縄産施釉陶器（24%）と続く。また、ほとんどが表採で時期は不明だが瓦も 117 点出土している。

道路と岩盤の間を掘り下げた北端トレンチは道路工事の影響か撹乱を受けており、遺物は少量であった。

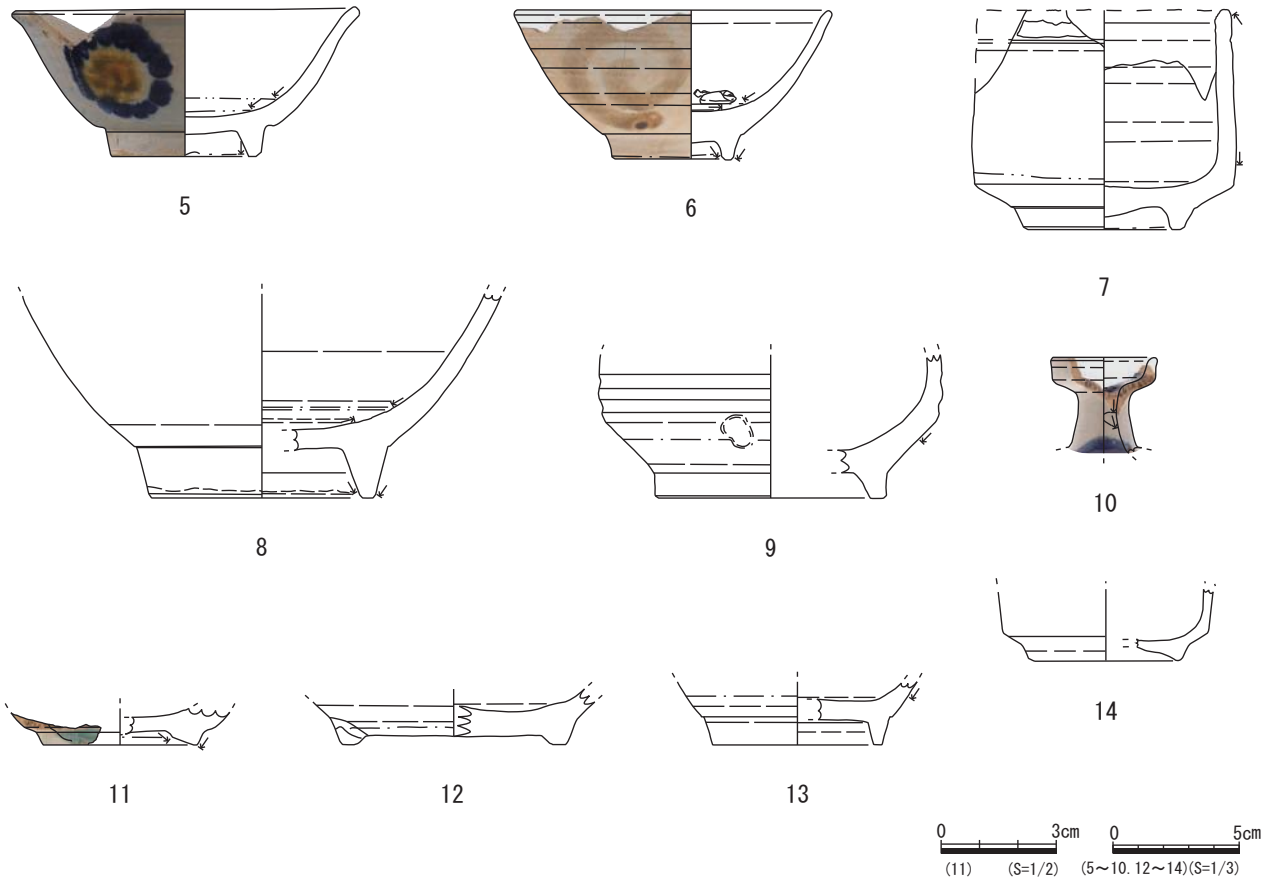
遺物の詳細については第Ⅲ‐３表～ 11 表で記載する。



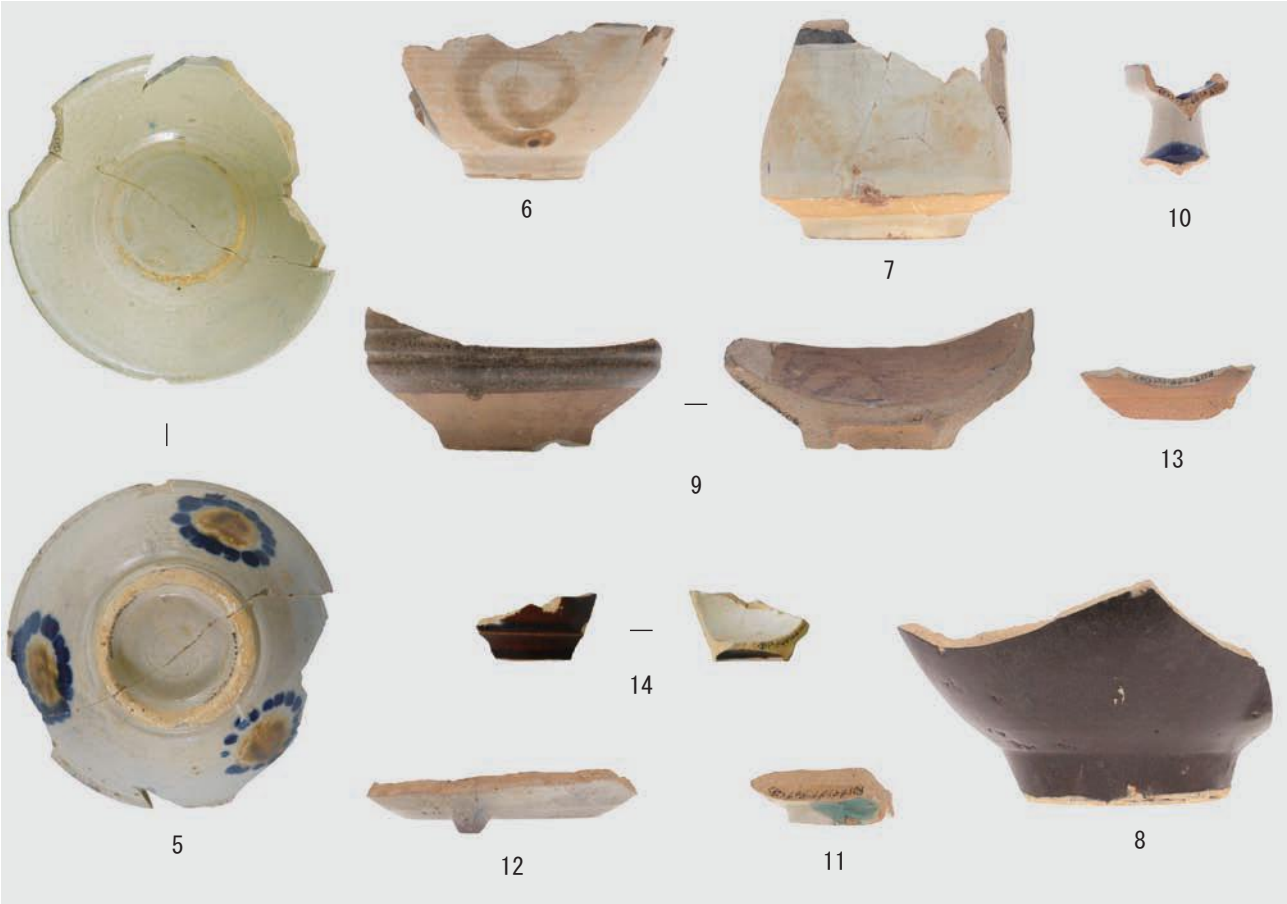
第Ⅲ－８図　沖縄産無釉陶器（甕 1、擂鉢 2、壺 3）．陶質土器（鉢 4）



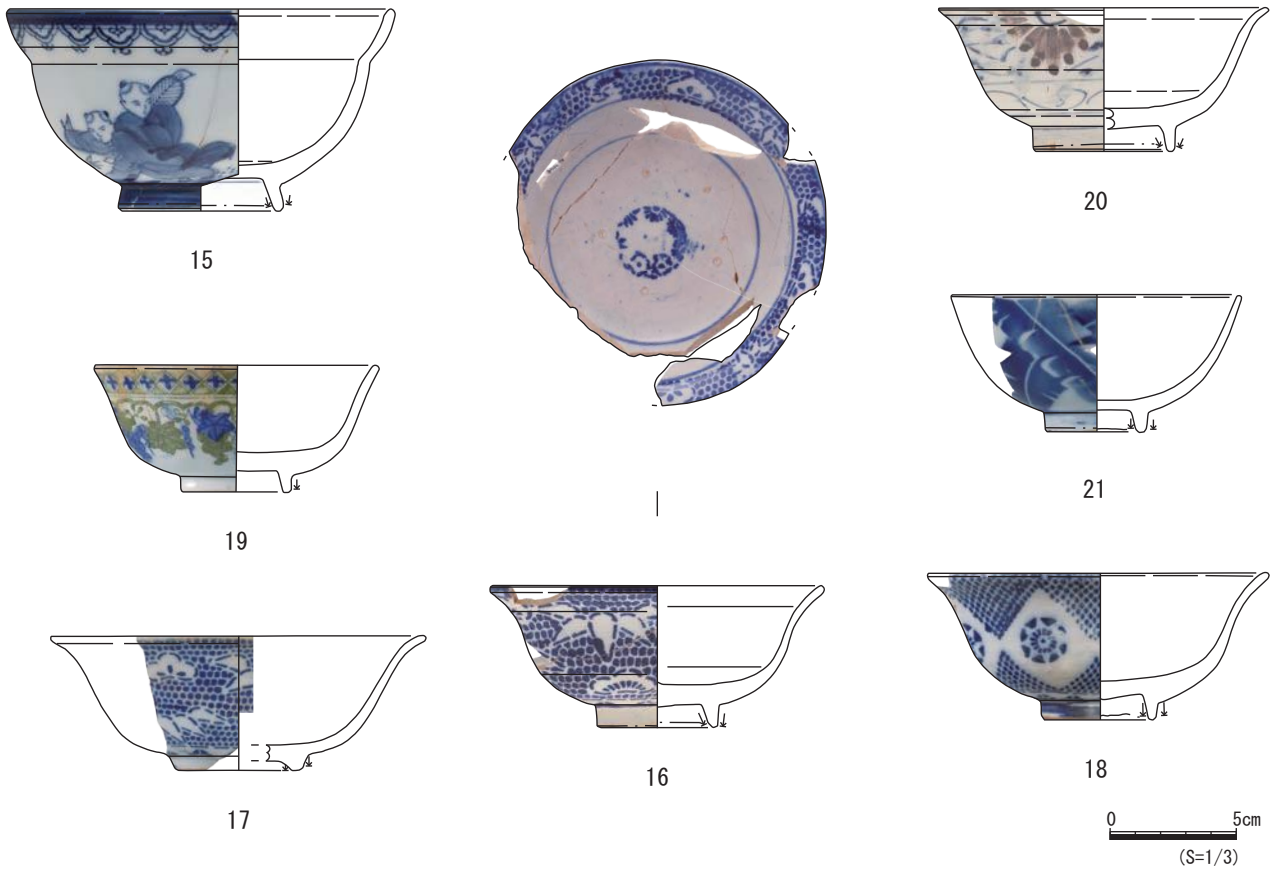
図版Ⅲ－57　沖縄産無釉陶器（甕 1、擂鉢 2、壺 3）．陶質土器（鉢 4）



第Ⅲ－９図　沖縄産施釉陶器（碗５、６、13. 火入７，９,14、鉢８. 酒器 10、11. 急須 12）

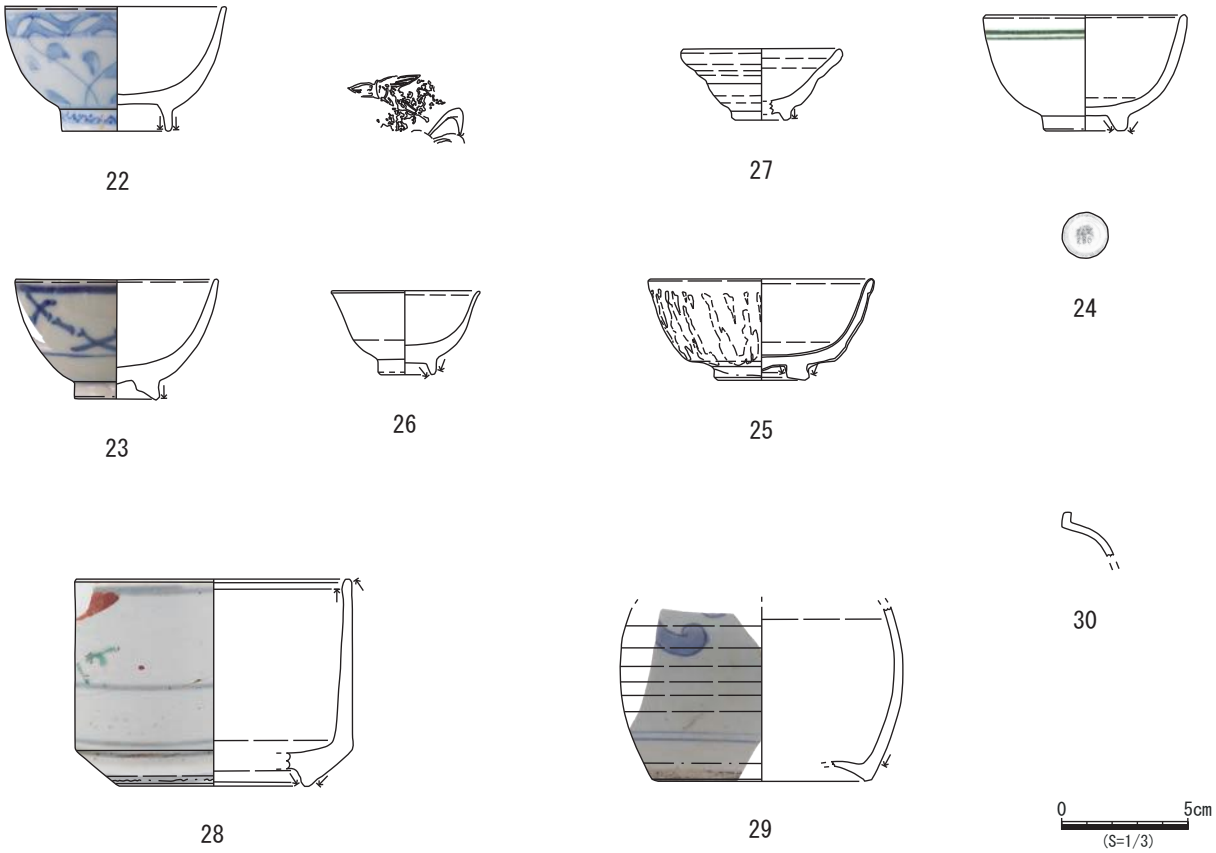


図版Ⅲ－ 58　沖縄産施釉陶器（碗５、６、13. 火入７，９,14、鉢８. 酒器 10、11. 急須 12）



第Ⅲ-10図　本土産磁器（碗 15 ～ 21）

図版Ⅲ－ 59　本土産磁器（碗 15 ～ 21）

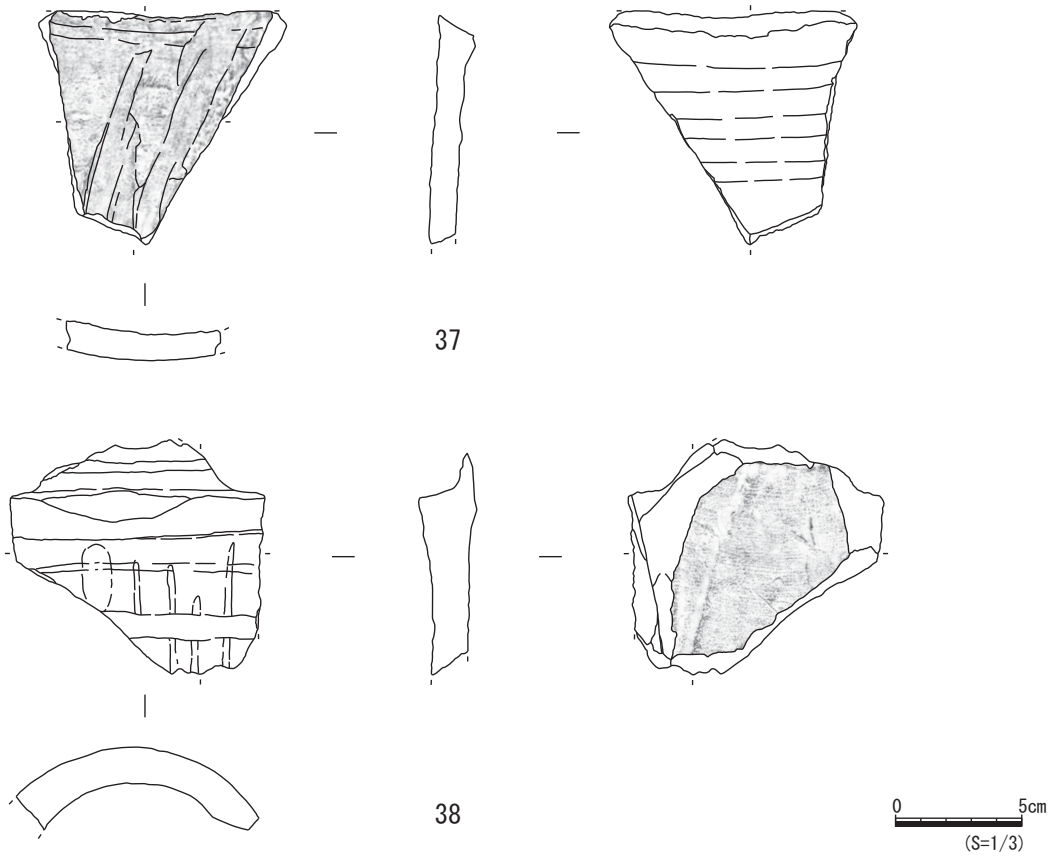


第Ⅲ－11図　本土産磁器（小碗22～25. 小杯26.27. 火入28. 袋物29. 急須30）

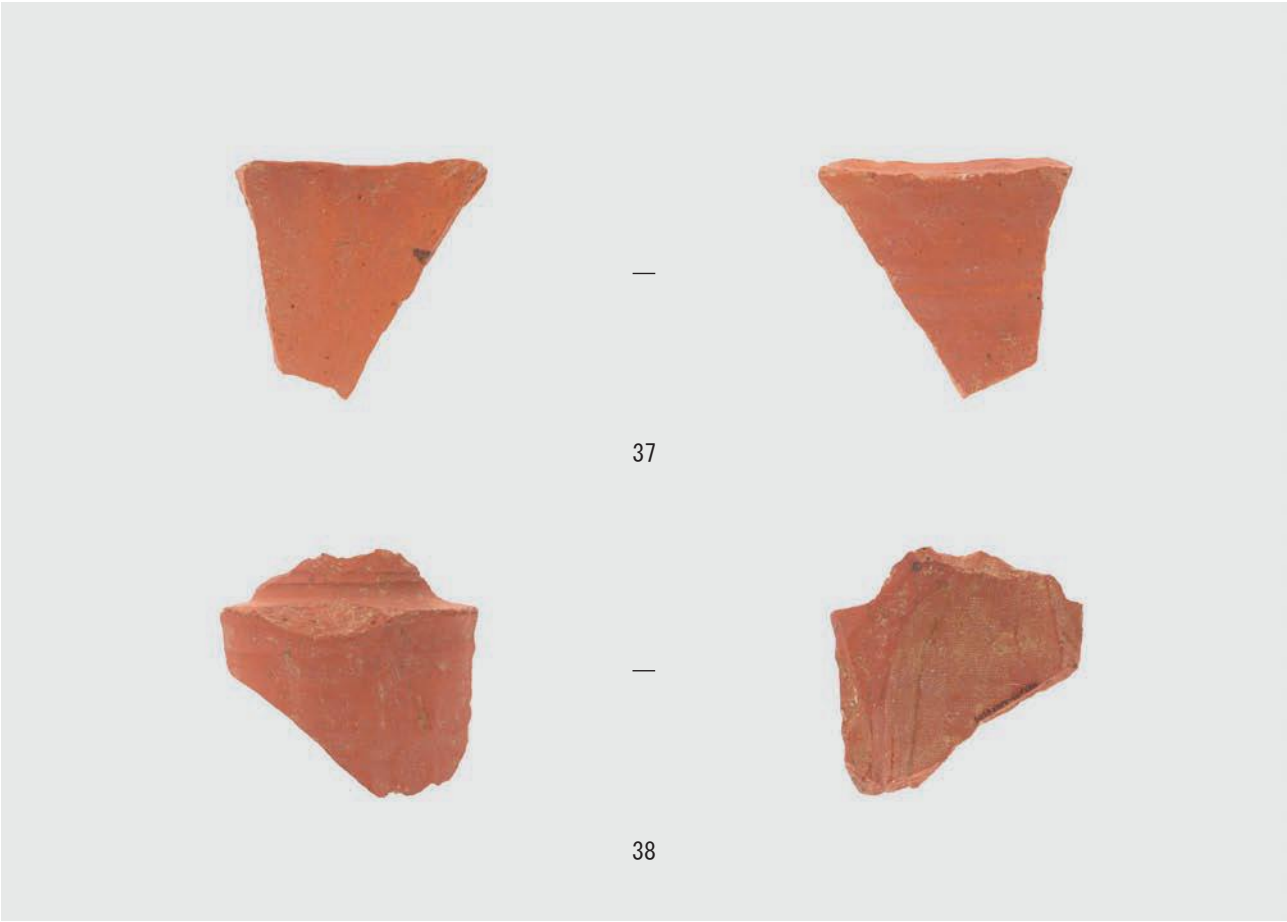
図版Ⅲ－60　本土産磁器（小碗22～25. 小杯26.27. 火入28. 袋物29. 急須30）

第Ⅲ－12図　本土産陶磁器（皿31～35. 蓋36）

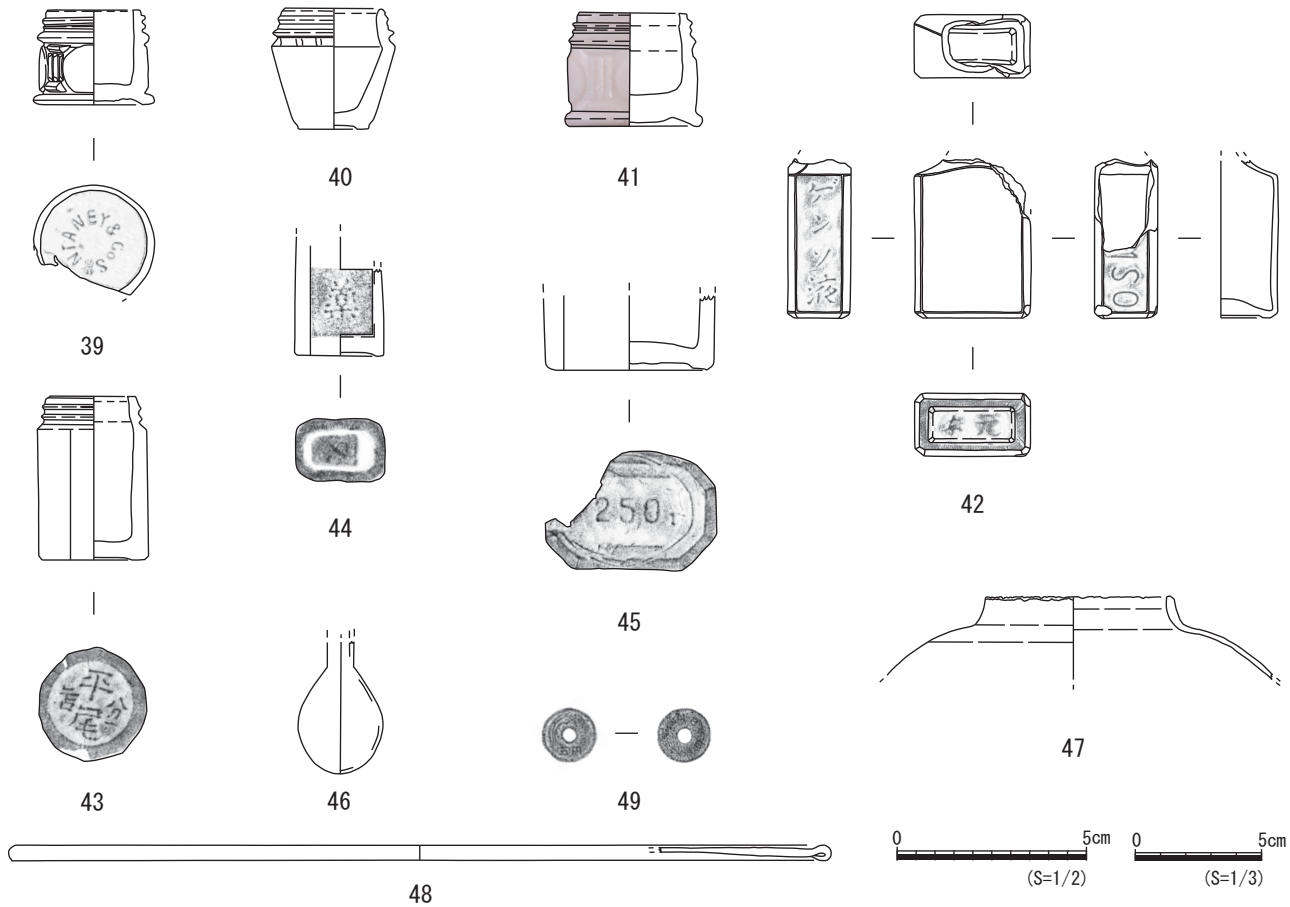
図版Ⅲ－61　本土産陶磁器（皿31～35. 蓋36）



第Ⅲ－13図　瓦（37.38）



図版Ⅲ－62　瓦（37.38）



第Ⅲ－ 14 図　ガラス製品（瓶 39 ～ 46 ランプ笠 47、48）・（銭貨 49）

図版Ⅲ－ 63　ガラス製品（瓶 39 ～ 46 ランプ笠 47、48）・（銭貨 49）

第Ⅲ－３表　佐真下ゲート前遺物観察表－１

図版番号		種類	器形	部位	分類	口径	底経	器高	所見	出土地	
第Ⅲ-８図 図版Ⅲ-57	1	沖無	甕	口～胴	-	50	-	-	頸部に沈線と波状、丸文貼付。頸部ヘラ記号「今」。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-８図 図版Ⅲ-57	2	沖無	擂鉢	口縁	Ⅳ類	24	-	-	口縁部に1条の圏線。口縁断面は逆Ｌ字形。	切通しトレンチ	Ⅰ層
第Ⅲ-８図 図版Ⅲ-57	3	沖無	壷	胴部	-	-	-	-	泥釉？マンガン釉？頸部に沈線。	切通しトレンチ	Ⅰ層
第Ⅲ-８図 図版Ⅲ-57	4	陶質	鉢	口縁	-	27.2	-	-	素地は赤褐色。焼成良好。	表採	-
第Ⅲ-９図 図版Ⅲ-58	5	沖施	碗	口～底	Ⅲ類Ab	13.7	5.9	6	素地は灰色で緻密。内外面、白化粧後に透明釉。畳み付けは釉剥ぎされる。 外面に呉須と褐釉による印花文。 見込みは蛇の目釉剥痕。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-９図 図版Ⅲ-58	6	沖施	碗	口～底	Ⅲ類Bb	12.6	4.6	5.9	内外面、白化粧後に透明釉。外面に褐釉、緑釉で渦巻き文。 見込みは蛇の目。釉剥痕。口縁は外反で胴部の腰は張る。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-９図 図版Ⅲ-58	7	沖施	火入	口～底	Ⅲ類a	9.9	6	8.7	Ⅲ類。口縁部は直口。白化粧後、透明釉。口唇部にコバルト釉。 沈線。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-９図 図版Ⅲ-58	8	沖施	鉢	胴～底	Ⅱ類ロ②	-	8.8	-	外面は鉄釉、内面は白化粧。内底は蛇の目釉剥ぎ。 高台際と高台内まで施釉。	切通しトレンチ	Ⅰ層
第Ⅲ-９図 図版Ⅲ-58	9	沖施	火入	底部	Ⅰ類ロ	-	9.2	-	素地は黄灰色で緻密。外面に鉄釉を施釉。胴部は轆轤痕が顕著。 胴部下部から高台にかけて無釉。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-９図 図版Ⅲ-58	10	沖施	酒器	口縁	Ⅲ類	4	-	-	白化粧後透明釉。内外面、呉須による色付け。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-９図 図版Ⅲ-58	11	沖施	酒器	底部	Ⅲ類	-	6.1	-	外面高台内まで白化粧後に透明釉。 緑釉が一部残存して見られる。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-９図 図版Ⅲ-58	12	沖施	急須	底部	Ⅲ類	-	7.4	-	白化粧後、透明釉。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-９図 図版Ⅲ-58	13	沖施	碗	底部	Ⅰ類	-	6.2	-	灰釉薬。腰が張る。内底は蛇の目釉剥ぎ痕。高台削り痕明瞭。	切通しトレンチ	Ⅰ層

第Ⅲ－４表　佐真下ゲート前遺物観察表－２

図版番号		種類	器形	部位	分類	口径	底経	器高	所見	出土地	
第Ⅲ-９図 図版Ⅲ-58	14	沖施	火入	底部	Ⅱ類ロ②	-	6.2	-	素地は黄色で荒い。両面に透明釉。	調査区北端	Ⅰ層
第Ⅲ-10図 図版Ⅲ-59	15	本磁	碗(大型)	口～底	-	15.1	6.3	8	大型の鉢。呉須による染付。高台にも呉須による圏線1条。 素地は白色で緻密。	切通しトレンチ	-
第Ⅲ-10図 図版Ⅲ-59	16	本磁	碗	口～底	砥部産	13	4.4	5.6	砥部産。口縁部外反。全面に透明釉、高台は釉剥ぎ。 型紙刷り。 文様は鶴、松竹文。見込みに松竹梅文。内底に目痕。	切通しトレンチ	Ⅰ層
第Ⅲ-10図 図版Ⅲ-59	17	本磁	碗	口～底	砥部産	15	4.9	5.4	砥部産。素地は白色で緻密。全面に透明釉、畳付けは露地。 外面に松竹文。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-10図 図版Ⅲ-59	18	本磁	碗	口～底	砥部産	13.6	4.6	5.9	砥部産。全面釉、畳付けは露地。外面に花文、見込みに松竹梅文。 内面に目痕有り。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-10図 図版Ⅲ-59	19	本磁	碗	口～底	-	11.4	4.4	5.1	素地は灰色で緻密。細かい黒色粒含む。全面に透明釉、畳み付け部は釉剥ぎ。 外面に銅版転写。コバルト釉と緑釉で葡萄と葉の染付。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-10図 図版Ⅲ-59	20	本磁	碗	口～底	染付	13.1	5.4	5.7	褐釉、呉須による花文と葉の文様。内底に蛇の目釉剥ぎ痕。 内面は呉須による圏線。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-10図 図版Ⅲ-59	21	本磁	碗	口～底	-	11.1	4	5.5	素地は白色で緻密。両面に透明釉後、畳付けは露地。 銅版転写による文様。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-11図 図版Ⅲ-60	22	本磁	小碗	口～底	-	8.9	4.4	5	素地は白色で緻密。全体透明釉。畳付は露地。外面はゴム版による草文様、 呉須で絵付け。底部には「並山」	切通しトレンチ	Ⅰ層
第Ⅲ-11図 図版Ⅲ-60	23	本磁	小碗	口～底	-	8.2	3.5	4.8	素地は灰色で緻密。両面に施釉。外面に竹文様。畳付けは露地で幅広、 斜めに落ちていく。底部中心は盛り上がる。	切通しトレンチ	Ⅰ層
第Ⅲ-11図 図版Ⅲ-60	24	本磁	小碗	完形	瀬戸・美濃系	7.9	3.1	4.6	瀬戸・美濃系。統制磁器。口縁部下部に緑の2重の圏線、高台底面に「岐 286」。素地は白色で緻密。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-11図 図版Ⅲ-60	25	本磁	小碗	口～底	瀬戸・美濃系	8.7	3.4	4	瀬戸・美濃系。内外面に緑釉、高台内は透明釉。 内外面に透明釉。畳み付けは露地。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-11図 図版Ⅲ-60	26	本磁	小杯	口～底	-	5.9	2.2	3.35	内面は色絵による文様。色絵は剥落して文様の詳細は不明。	切通しトレンチ	Ⅲ層

第Ⅲ－５表　佐真下ゲート前遺物観察表－３

図版番号		種類	器形	部位	分類	口径	底経	器高	所見	出土地	
第Ⅲ-11図 図版Ⅲ-60	27	本磁	小杯	口～底	瀬戸・美濃系	6.4	2.3	2.85	染付。口縁部外面、内面に鉄釉？褐釉。外面胴部に呉須による文様。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-11図 図版Ⅲ-60	28	本磁	火入	口～底	-	11	7.6	8.2	内外面に白化粧後に透明釉。外面は呉須による圏線。緑、赤の絵付け。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-11図 図版Ⅲ-60	29	本磁	袋物	胴～底	-	-	8.3	-	内面にコバルトで2重の圏線。内面は透明釉。	切通しトレンチ	Ⅰ層
第Ⅲ-11図 図版Ⅲ-60	30	本磁	急須	口～胴	-	-	-	-	両面、白化粧後に透明柚。頸部から文様有り。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-12図 図版Ⅲ-61	31	本陶	皿	口～底	-	12.8	5.8	4.8	白化粧後、透明釉を全面に施釉。畳付は釉剥ぎ後、研磨。口縁部の内外面に褐釉、内底に褐釉で花文。外面に轆轤痕。 胴部から口縁にかけて膨らむ。	並松街道沿い	Ⅰ層
第Ⅲ-12図 図版Ⅲ-61	32	本磁	皿	底部	瀬戸・美濃系	-	4.8	-	素地は白色で緻密。全面に透明釉。畳付けは露地。底面に「菊水陶器」の印。 砥部産。全面釉。高台内は剥ぎ取り。外面に呉須で2本の圏線を施す。胴部に	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-12図 図版Ⅲ-61	33	本磁	皿	底部	砥部産	-	7	-	砥部産。全面釉。高台内は剥ぎ取り。外面に呉須で2本の圏線を施す。胴部にも呉須による色付け。欠損のため文様の判別不可。内面に草花、竹葉、扇、文字の印判。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-12図 図版Ⅲ-61	34	本磁	皿	口～底	-	11.2	7.2	2.45	小皿。素地は白色で緻密。両面に透明釉。畳付けは露地。 銅版転写による文様。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-12図 図版Ⅲ-61	35	本陶	皿	口～底	-	9.8	5.2	2.8	小皿。内外面に灰釉、内面口縁部に呉須、鉄釉による文様。 見込みに蛇の目釉剥痕。	調査区北端	Ⅰ層
第Ⅲ-12図 図版Ⅲ-61	36	本磁	蓋	撮み～鍔	-	7.1	-	2.55	全面に透明釉。庇部は露地。外面に渦巻き文様、裏面に文様有り。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-13図 図版Ⅲ-62	37	瓦	平瓦	広端部	明朝系	幅9.8	長9.3	-	広端部。焼成は良好。外面のナデ痕明瞭。	切通しトレンチ	Ⅰ層
第Ⅲ-13図 図版Ⅲ-62	38	瓦	丸瓦	玉縁～筒部	明朝系	幅10.1	長9.3	-	明朝系丸瓦。玉縁～筒部。焼成は良好。 胎土は明橙色で白色粒や赤色粒含む。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-14図 図版Ⅲ-63	39	ガラス製品	瓶	口～底	化粧瓶	3.65	4.2	3.75	白色瓶。外面に丸文。底面に「NTANEY＆COSA」のエンボス。 栓はネジ型。	切通しトレンチ	Ⅰ層

第Ⅲ－６表　佐真下ゲート前遺物観察表－４

図版番号		種類	器形	部位	分類	口径	底経	器高	所見	出土地	
第Ⅲ-14図 図版Ⅲ-63	40	ガラス製品	瓶	口～底	化粧瓶	3.9	2.8	4.8	白色の円筒型で頸部は波状に加工。ネジ栓。化粧瓶か。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-14図 図版Ⅲ-63	41	ガラス製品	瓶	口～底	化粧瓶	4.3	5.2	4.5	白色の広口で背の低い円筒型。外面に丸文。ネジ栓。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-14図 図版Ⅲ-63	42	ガラス製品	瓶	胴～底	薬瓶	幅4.6	-	最厚 2.5	無色透明瓶。気泡を多く含む。側面に「ゲンソ液」、「ＧＥＮＳＯ」、 底面には「元素」のエンボス。薬品瓶か。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-14図 図版Ⅲ-63	43	ガラス製品	瓶	口～底	化粧瓶	3.5	4.1	-	10面取りの筒型化粧瓶。底面に「平尾分六店」のエンボス。	切通しトレンチ	Ⅰ層
第Ⅲ-14図 図版Ⅲ-63	44	ガラス製品	瓶	胴～底	薬瓶	-	2.3	-	コバルト色の薬瓶。細かい気泡が入る。 表胴部に「・・・薬」、底部には「と又の文字を合わせたもの。	切通しトレンチ	-
第Ⅲ-14図 図版Ⅲ-63	45	ガラス製品	瓶	底部	-	-	6.2	-	茶色の八角形の瓶。底面に「250Ｌ」。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-14図 図版Ⅲ-63	46	ガラス製品	瓶	胴～底	薬瓶	-	-	-	丸みを帯びた楕円形の半透明色瓶。気泡を多く含む。	切通し	表面・ 採集
第Ⅲ-14図 図版Ⅲ-63	47	ガラス製品	ランプ笠	上部開口部片	-	7.7	-	-	上部開口部。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-14図 図版Ⅲ-63	48	ガラス製品	ランプ笠	端部	-	-	-	-	乳白色。ランプ笠の端部。端部は曲げ玉縁状。	切通しトレンチ	Ⅲ層
第Ⅲ-14図 図版Ⅲ-63	49	銭貨	５円	完形	-	2.3	-	-	昭和47年製。	切通しトレンチ	Ⅲ層

第Ⅲ－７表　佐真下ゲート集計表－１

種類・産地					出土地	表採	切通し		切通しトレンチ				調査区中央	調査区北端	調査区北端トレンチ	並松街道沿い	不明	総計	
						-	表面採取	Ⅰ層	Ⅰ層	Ⅲ層	Ⅳ層	-	清掃中	Ⅰ層	-	Ⅰ層	-		
沖縄産施釉陶器	火入	Ⅰ類	ロ		胴～底							1						1	4
					底部					1								1	
		Ⅱ類	ロ	②	底部									1				1	
		Ⅲ類	A		口～底					1								1	
	急須	Ⅲ類			注口				1									1	2
					底部					1								1	
	酒器	Ⅲ類			口縁					1								1	5
					胴部				1	1								2	
					底部					1	1							2	
	小碗	Ⅱ類	ロ	B ①	口縁					1								1	7
				B ②	口縁			1				1						2	
		Ⅲ類	A		口縁					2								2	
			b		口縁				1									1	
			B	b	口～胴					1								1	
	壷？	Ⅰ類	ハ		胴部				1										1
	碗	Ⅰ類	イ	a	胴部					1								1	43
			イ		胴～底					1								1	
					底部				1									1	
		Ⅰ類		②	底部	1												1	
		Ⅰ類			底部				1									1	
		Ⅲ類	b		口縁					2								2	
			A		口縁										1			1	
			B		口縁							1			1			2	
			A		口～胴					1								1	
			b		口～胴				2	2								4	
			B	b	口～胴				2	5		1						8	
					口～底				1	3	1							5	
			A	b	口～底					3								3	
			b		胴～底				3	1	1	1						6	
			B		胴～底					1								1	
		Ⅲ類			胴部				2	2								4	
					底部					1								1	
	鉢	Ⅱ類	ハ	A ②	口縁									1				1	4
					口～胴					1								1	
			ロ		口～胴					1								1	
			ロ	②	胴～底				1									1	
	不明	Ⅰ類	イ		胴部					3		1						4	20
			ハ		胴部			1										1	
			ロ		胴部										1			1	
		Ⅰ類			底部					1								1	
		Ⅱ類	ロ	②	胴部					1		2						3	
		Ⅲ類			胴部				3	3	1	2						9	
		-			口縁	1												1	
沖施合計						2		2	20	43	4	10		2	3			86	

第Ⅲ－８表　佐真下ゲート集計表－２

種類・産地			出土地	表採	切通し		切通しトレンチ				調査区中央	調査区北端	調査区北端トレンチ	並松街道沿い	不明	総計	
				-	表面採取	Ⅰ層	Ⅰ層	Ⅲ層	Ⅳ層	-	清掃中	Ⅰ層	-	Ⅰ層	-		
沖縄産無釉陶器	壷		肩部			1										1	3
			胴部				1									1	
			底部									1				1	
	壷？		底部						1								1
	壺　or　甕		胴部							4						4	6
			底部					1		1						2	
	鉢	Ⅲ類	頸部			1											1
	瓶　or　壺		胴部				2										2
	甕	Ⅲ類	口縁										1			1	7
		-	口～胴					1								1	
		-	胴部				1	2					2			5	
	甕　or　鉢		胴部					1									1
	擂鉢	Ⅳ類	口縁				1									1	4
		-	胴部						1				2			3	
	不明		胴部			2	6	19	1			1	7				36
沖　無　合　計						4	11	24	3	5		2	12			61	
アカムヌー	蓋		撮み			1											1
	鍋	Ⅱ類ａ	口縁										1			1	3
		Ⅱ類ａ？	口～胴					1								1	
		-	胴部				1									1	
	鉢	Ⅰ類	口縁					1								1	2
		-	底部					1								1	
	不明	-	胴部			1	1	3	1			1		1		8	12
			不明			1			1	2						4	
ア　カ　ム　ヌ　ー　合　計						3	2	6	2	2		1	1	1		18	
陶質土器	鉢		口縁	2												2	7
			胴部	3			1									4	
			底部	1												1	
	不明		胴部										1				1
陶　質　合　計				6			1						1			8	
本土産陶器	火炉		受け部					1									1
	Ⅲ		口縁								1					1	3
			口～底									1		1		2	
	不明		胴部					1									1
本　土　産　陶　器　合　計								2			1	1		1		5	

第Ⅲ－９表　佐真下ゲート集計表－３

種類・産地		出土地		表採	切通し		切通しトレンチ				調査区中央	調査区北端	調査区北端トレンチ	並松街道沿い	不明	総計	
				-	表面採取	Ⅰ層	Ⅰ層	Ⅲ層	Ⅳ層	-	清掃中	Ⅰ層	-	Ⅰ層	-		
本土産磁器	瀬戸・美濃系	皿	口～底				1									1	2
			底部					1		1						1	
		小杯	口縁													1	4
			口～底					1								1	
			口～胴					2								2	
		小碗	完形					2								2	199
			完形					2								2	
			口縁				4	6								10	
			口縁					2								2	
			口～底			1	16	33		3						53	
			口～底			1	4	10		2						17	
			口～胴			2	20	33	2	5		1	1			64	
			口～胴				2	7		2						11	
			胴部			1	3	11		2			1			18	
			胴～底				2									2	
			胴～底				4	9					1			14	
			底部					4								4	
		碗	口～胴					1									1
	砥部産	皿	底部					1									1
		碗	口縁				2	1					1			4	32
			口～底				3	5								8	
			口～胴				4	5	1			1				11	
			胴部				1	3								4	
			胴～底				3									3	
			底部					2								2	
		不明	胴部			1											1
	産地不明	火入	口～底					1								1	2
			口～胴					1								1	
		蓋	撮み～鍔					2								2	5
			鍔				1	2								3	
		急須	口～胴					1								1	2
			底部					1								1	
		皿	口縁					1								1	9
			口～底					4								4	
			口～胴						1	1						2	
			胴～底				1									1	
			底部					1								1	
		皿？	口縁					1								1	2
			口～胴											1		1	
		小杯	口～底					5						1		5	12
			口～胴					4								5	
			胴部							1						1	
			胴～底					1								1	
		小碗？	口縁			1											1
		小碗or碗？	口～胴					2									2
		水注	注口					1									1
		袋物	胴～底				1	1								2	3
			底部				1									1	
		碗	口縁						1							1	20
			口～底				2	5	1	1						9	
			口～胴					4								4	
			胴部					2								2	
			胴～底					2								2	
			底部				1	1								2	
		不明	胴部				2	13		2		1			1		19
	染付	碗	口～底					1									1
本土産磁器合計						7	78	198	6	20		3	4	2	1	319	

第Ⅲ-10表　佐真下ゲート集計表－４

種類・産地				出土地	表採	切通し		切通しトレンチ				調査区中央	調査区北端	調査区北端トレンチ	並松街道沿い	不明	総計	
					-	表面採取	Ⅰ層	Ⅰ層	Ⅲ層	Ⅳ層	-	清掃中	Ⅰ層	-	Ⅰ層	-		
瓦	丸瓦	角1	明朝系	玉縁部					1				4				5	14
				玉縁～筒部					1					3			4	
				筒部						2				1			3	
				端部										1			1	
			-	不明	1												1	
		角なし	明朝系	玉縁部									1				1	3
				筒部						2							2	
	平瓦	角1	明朝系	広端部	2			1	3	2				9			17	21
				筒部				1									1	
				狭端部						1			2				3	
		角なし		広端部			2		2				3	2			9	79
				筒部					9	6	2		20	11			48	
				狭端部				1									1	
				不明			1	4	3	3				10			21	
瓦　集　計					3		3	7	19	16	2		30	37			117	
ガラス製品	ランプ笠			上部開口部片				1	2								3	22
				端部				2	2							1	6	
				不明				2	11								13	
	瓶	化粧瓶		口縁			1		3	1							4	35
				口～底				2	4								6	
				口～胴				1	2								3	
		化粧瓶？		胴部					2								2	
		飲料水瓶？		底部					1								1	
		薬瓶		胴～底		1			1		1						3	
		不明		口縁					1								1	
				口～底					1	1							2	
				口～胴					2								2	
				胴部					7								7	
				底部					4								4	
		不明		胴部					13								13	15
				底部				1									1	
				不明					1								1	
ガ　ラ　ス　製　品　合　計						1	1	9	57	2	1					1	72	

第Ⅲ -11 表　佐真下ゲート集計表 - 5

種類・産地		出土地	表採	切通し		切通しトレンチ				調査区中央	調査区北端	調査区北端トレンチ	並松街道沿い	不明	総計	
			-	表面採取	Ⅰ層	Ⅰ層	Ⅲ層	Ⅳ層	-	清掃中	Ⅰ層	-	Ⅰ層	-		
現代陶器	図工作品	完形	1													1
碍子	-	口縁					1					1				2
レンガ	-	-	1													1
銭貨	100円	完形		1											1	4
	10円	完形		1											1	
	5円	完形					1								1	
	5セント	完形				1									1	
金属製品	コイン	完形		1												1
鉄製品	丸釘	-							1						1	2
	不明	-										1			1	
焼土	-	-					1			1						2
石	不明	破片										1			1	13
	石灰岩片	破片				1	1								2	
	石灰？	破片							10						10	
獣骨	イノシシorブタ	肩甲骨(L)						1							1	10
		大腿骨？			1										1	
	ウマ	上顎骨						6							6	
	種不明	大腿骨(L)					1								1	
		不明					1								1	
二枚貝	不明	破片				1										1
巻貝	タカラガイ科　不明	破片				1										1
炭化物	植物遺存体	-						1							1	2
	炭化物	-					1								1	
総　計				4	21	132	356	41	51						726	
			13	25	580					2	39	61	4	2		

第Ⅳ章　自然科学分析

株式会社　パリノ・サーヴェイ

第１節　はじめに

佐真下ゲート前発掘調査で検出された木材の種類や年代を知る目的で、放射性炭素年代測定と炭化材同定を実施する。

第２節　試料

分析試料は、佐真下屋取古集落　切通しトレンチ４層 (以下４層と略す)、佐真下屋取古集落　切通しトレンチ３層 (以下３層と略す)、切り株から採取した試料の３点である。なお、切り株からの採取試料は、半炭化の状態で、堅く脆い。

第３節　分析方法

１．放射性炭素年代測定

試料の表面に付着した泥などの不純物を削り落として 50mg に調整する。塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に 1mol/L である。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化 (鉄を触媒とし水素で還元する) は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。測定はタンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を用いて、14C の計数、13C 濃度 (13C/12C)、14C 濃度 (14C/12C) を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料 (HOX- Ⅱ)、国際原子力機関から提供される標準試料 (IAEA-C6 等)、バックグラウンド試料 (IAEA-C1) の測定も行う。δ13C は試料炭素の 13C 濃度 (13C/12C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。　また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う (Stuiver & Polach 1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウエアは、OxCal4.4(Bronk,2009)、較正曲線は IntCal20 (Reimer et al.,2020) である。

２．炭化材同定

炭化材同定は、年代測定の試料調整の際に削り落とした部分を用いる。木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の各割片を作成し、双眼実体顕微鏡や電子顕微鏡で観察する。木材組織の種類や配列の特徴を、現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類 (分類群) を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) を参考にする。

第４節　結果

１. 放射性炭素年代測定

結果を第Ⅳ- １表 , 第Ⅳ- １図に示す。炭化材は定法での分析処理が可能であり、測定に必要なグラファイトは十分得られている。同位体補正を行った値は、「4 層」が 215±25BP、「3 層」が 135±25BP、「切り株」が 155 ± 25BP である。

暦年較正は、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、その後訂正された半減期（14C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正用データーセットは、IntCal20 (Reimer et al.,2020) を用いる。2σ の値は、「4 層」がｃａｌＡＤ 1643 ～、「3 層」がｃａｌＡＤ 1675 ～ 1643、「切り株」がｃａｌＡＤ 1667 ～である。

２. 炭化材同定

結果を第Ⅳ - １表に示す。広葉樹 2 種類 (イチジク属、クスノキ科) が検出された。以下に検出された種類の植物解剖学的所見を述べる。

・イチジク属（Ficus ）　　クワ科イチジク属

散孔材で管壁は厚く、道管は大きく、単独および 2 ～ 4 個が複合する。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性で 3 ～ 8 細胞幅、5 ～ 20 細胞高。柔組織は帯状でめだつ。

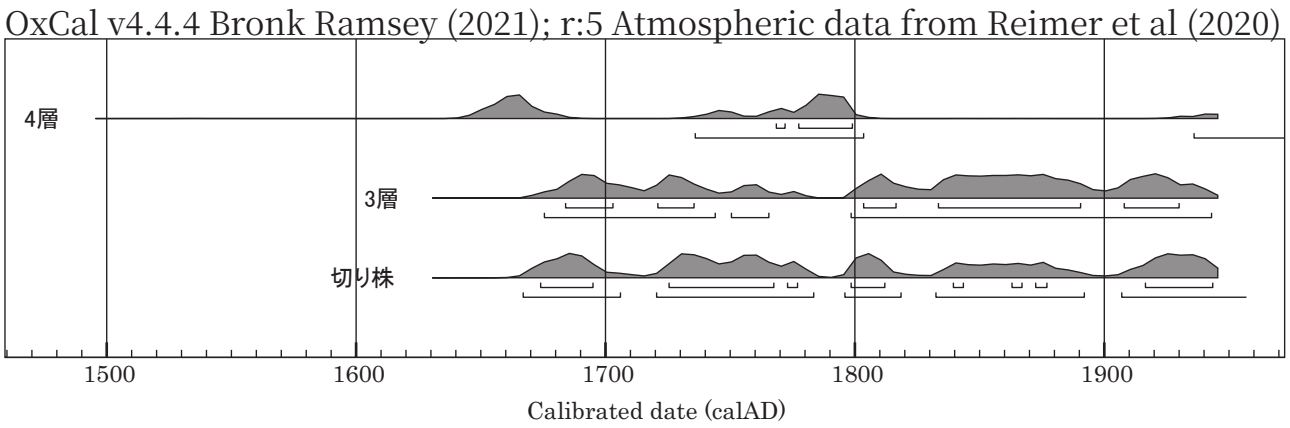
・クスノキ科（Lauraceae）

散孔材で管壁は厚く、横断面では楕円形、単独および 2 ～ 3 個が放射方向に複合する。道管は単穿孔、壁孔は交互状。放射組織は異性、1 ～ 5 細胞幅、1 ～ 20 細胞高。柔組織は周囲状。

第Ⅳ － １表　放射性炭素年代測定結果

試料名	性状	方法	補正年代（暦年較正用）BP	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正年代					Code No.	
						年代値			確率%		
4層	炭化材 イチジク属	AAA (1M)	215±25 (217±23)	−31.96 ±0.35	σ	cal AD 1650 − cal AD 1673	301 − 277 calBP		31.8	YU−15012	pal−13851
						cal AD 1768 − cal AD 1772	182 − 179 calBP		2.7		
					2σ	cal AD 1777 − cal AD 1799	173 − 152 calBP		33.7		
						cal AD 1643 − cal AD 1684	307 − 267 calBP		37.9		
						cal AD 1736 − cal AD 1803	215 − 147 calBP		53.1		
						cal AD 1936 − cal AD 1950	15 − 0 calBP		4.5		
3層	炭化材 クスノキ科	AAA (1M)	135±25 (135±23)	−31.13 ±0.33	σ	cal AD 1684 − cal AD 1703	267 − 248 calBP		9.9	YU−15013	pal−13852
						cal AD 1721 − cal AD 1735	230 − 215 calBP		7.5		
						cal AD 1803 − cal AD 1816	147 − 134 calBP		6.6		
						cal AD 1833 − cal AD 1890	117 − 60 calBP		32.4		
						cal AD 1908 − cal AD 1930	43 − 21 calBP		11.9		
					2σ	cal AD 1675 − cal AD 1744	275 − 207 calBP		26.5		
						cal AD 1750 − cal AD 1765	200 − 185 calBP		4.2		
						cal AD 1798 − cal AD 1943	152 − 8 calBP		64.7		
切り株	半炭化? クスノキ科	AAA (1M)	155±25 (153±23)	−28.35 ±0.35	σ	cal AD 1674 − cal AD 1695	277 − 256 calBP		12.3	YU−15014	pal−13853
						cal AD 1725 − cal AD 1767	225 − 183 calBP		24.1		
						cal AD 1773 − cal AD 1777	178 − 174 calBP		1.8		
						cal AD 1798 − cal AD 1812	152 − 139 calBP		8.1		
						cal AD 1839 − cal AD 1843	111 − 107 calBP		1.7		
						cal AD 1863 − cal AD 1867	88 − 84 calBP		1.7		
						cal AD 1872 − cal AD 1877	78 − 74 calBP		2.0		
						cal AD 1916 − cal AD 1943	34 − 7 calBP		16.7		
					2σ	cal AD 1667 − cal AD 1706	284 − 245 calBP		15.9		
						cal AD 1720 − cal AD 1783	230 − 167 calBP		29.7		
						cal AD 1796 − cal AD 1818	155 − 132 calBP		9.8		
						cal AD 1832 − cal AD 1892	118 − 59 calBP		19.8		
						cal AD 1907 − cal AD 1950	44 − 0 calBP		20.3		

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68.2%が入る範囲）を年代値に換算した値。
4)AAAは、酸・アルカリ・酸処理を示す。
5)暦年の計算には、OxCal v4.4を使用
6)暦年の計算には1桁目まで示した年代値を使用。
7)較正データーセットは、IntCal20を使用。
8)較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
9)統計的に真の値が入る確率は、σが68.2%、2σが95.4%である



第Ⅳ－１図　暦年較正結果

第５節　考察

年代測定結果を暦年代でみると、年代幅が広い。これは、近世以降の較正曲線がのこぎり状になっていることや、産業革命以降の化石燃料の消費による同位対比の変動などが関係している。測定年代を参考にすれば、いずれの試料も 18 ～ 19 世紀頃と考えるのが妥当と思われる。

木材は、イチジク属とクスノキ科である。いずれも琉球諸島では普通にみられる種類で、近傍に生育していたものが、燃料材等として使われて炭化した可能性がある。

引用文献

Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon,51,337-360.

林　昭三 ,1991, 日本産木材顕微鏡写真集 . 京都大学木質科学研究所 .

伊東隆夫 ,1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料 ,31, 京都大学木質科学研究所 ,81-181.

伊東隆夫 ,1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料 ,32, 京都大学木質科学研究所 .66-176.

伊東隆夫 ,1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料 ,33, 京都大学木質科学研究所 ,83-201.

伊東隆夫 ,1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料 ,34, 京都大学木質科学研究所 ,30-166.

伊東隆夫 ,1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料 ,35, 京都大学木質科学研究所 ,47-216.

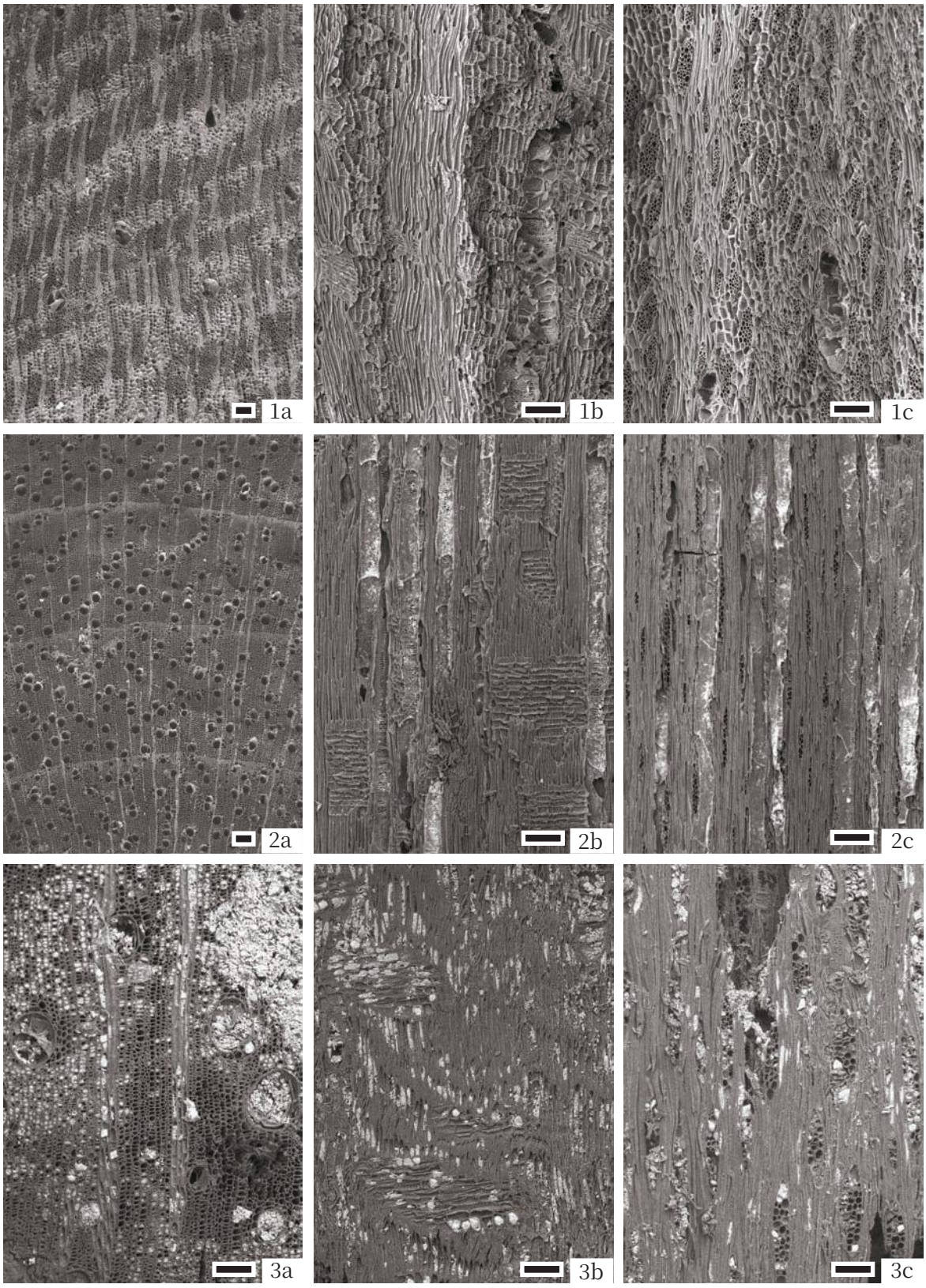
Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C. Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S.,2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP). Radiocarbon, 62,1-33..

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006, 針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）, 海青社 ,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood

Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

島地　謙・伊東隆夫 ,1982, 図説木材組織 . 地球社 ,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998, 広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・　藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）, 海青社 ,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.



1.イチジク属(切り通しトレンチ4層)
2.クスノキ科(切り通しトレンチ3層)
3.クスノキ科(切り株)

a:木口　b:柾目 c:板目
スケールは100μm

図版Ⅳ－１　炭化材

第Ⅴ章　結語

第Ⅳ章まで佐真下屋取古集落遺跡の調査成果について述べてきた。佐真下屋取古集落遺跡は戦後大部分が普天間飛行場に接収された佐真下に関する遺跡である。佐真下は宜野湾・我如古・嘉数・大謝名にまたがる屋取集落が 1939（昭和 14）年に分離独立し真栄原となった後に 1943（昭和 18）年にジノーンヌメー・ナガサク地域が、真栄原から分離独立し誕生した集落である。

調査を行った場所は、現在の佐真下ゲート前で宜野湾並松街道と街道に交わる切り通しである。切り通しは比嘉小の東の切り通し（ヒジャグヮーヌアガリヌワイトゥイ）と呼ばれており、切り通しが残存している状況が確認されていた場所である。今回の調査では切り通しの構造や並松街道沿いの岩盤が削られていることが確認できた。

比嘉小の東の切り通し（ヒジャグヮーヌアガリヌワイトゥイ）は床面の岩盤と岩盤の間を埋めるように、小礫交じりの土で造成した様子が確認できた。また、使用面と見られるⅢ層は出土遺物の傾向から、戦後もしばらく表土として露出していたと見られることが分かった。遺物の出土状況や層の堆積から判断すると、戦後しばらくは当時の床面が露出していたものの、その後の造成もしくは切り通し上部で行われた造成の影響を受けて流れ込んだ土で 50 ～ 60 ㎝ほど床面が埋もれた状況が窺える。並松街道は手作業で岩盤を削った加工痕が確認された。戦前、天然記念物にも指定された松が立ち並んだ並松街道の面影は現在ほとんど確認できないため、当時の街道の様子を知る貴重な資料である。削られた岩盤は一部に鍾乳石が見られ、下に鍾乳洞が続いていることを確認することができた。

以上が今回の緊急発掘調査の成果である。佐真下屋取古集落遺跡は戦前の佐真下集落の一端が窺える遺跡であるとともに、宜野湾市の南北を繋いだ宜野湾並松街道の貴重な資料が得られた遺跡であった。本遺跡は聞き取り調査や現地調査で切り通しが残存していることは確認していたものの、基地内であったため、現地踏査が困難でその全容を確認することが難しかったが、11 号整備事業に係る試掘調査によって改めて佐真下屋取古集落遺跡として確認された。現時点では本調査区のみが遺跡の範囲となっているが、今後は普天間飛行場の中にさらに広がることが想定される。

図版Ⅴ－１ 調査前：比嘉小の東の切り通し（ヒジャグヮーヌアガリヌワイトゥイ）

【参考・引用文献】

河名俊男 1988『琉球列島の地形』沖縄新星図書出版

宜野湾市史編集委員会編 1985『宜野湾市史』第四巻資料編三　宜野湾市

宜野湾市史編集委員会編 2000『宜野湾市史』第九巻資料編八　宜野湾市

宜野湾市教育委員会 2012『ぎのわんの地名－内陸部編－』（市民民俗芸能調査報告書）

宜野湾市教育委員会 2012『大山前門原第一遺跡』(宜野湾市文化財調査報告書第 49 集)

林　昭三 ,1991, 日本産木材顕微鏡写真集 . 京都大学木質科学研究所 .

伊東隆夫 ,1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ . 木材研究・資料 ,31, 京都大学木質科学研究所 ,81-181.

伊東隆夫 ,1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ . 木材研究・資料 ,32, 京都大学木質科学研究所 .66-176.

伊東隆夫 ,1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ . 木材研究・資料 ,33, 京都大学木質科学研究所 ,83-201.

伊東隆夫 ,1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ . 木材研究・資料 ,34, 京都大学木質科学研究所 ,30-166.

伊東隆夫 ,1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ . 木材研究・資料 ,35, 京都大学木質科学研究所 ,47-216.

Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C. Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S.,2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP). Radiocarbon, 62,1-33..

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006, 針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）, 海青社 ,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood

Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

島地　謙・伊東隆夫 ,1982, 図説木材組織 . 地球社 ,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998, 広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・　藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）, 海青社 ,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

報告書抄録

ふりがな	さましたやーどぅいこしゅうらくいせき
書籍	佐真下屋取古集落遺跡
副書名	令和元年　佐真下ゲート前道路整備に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査
巻次	—
シリーズ名	宜野湾市文化財調査報告書
シリーズ番号	第60集
編著者名	金城　りお
発行機関	宜野湾市教育委員会
所在地	〒901-2203　沖縄県宜野湾市野嵩１丁目１番２号　TEL098-893-4430
発行年月日	2023（令和５）年2月28日

所有遺跡名	所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
佐真下屋取古集落遺跡	沖縄県宜野湾市佐真下	472501	341	26°15′49.4″	127°44′56.1″	20191105～20191226	160㎡	市道11号道路整備に伴う調査。

所有遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
佐真下屋取古集落遺跡	集落跡	近代	琉球石灰岩の切り通し遺跡	近代沖縄産陶器、本土産磁器、ガラス等	

要約	当該地には、宜野湾並松街道跡に沿って琉球石灰岩の小丘陵が所在するが、その石灰岩を人為的に切り通して“”ワイトゥイ“”としており、直接的に加工された石灰岩壁には一部に工具痕も確認された。また、ワイトゥイの路面（床面）は後世の改変で削られていたが、近代の造成の一環として礫が充填されている状況が認められ、斜面地における通路の造成方法を確認することができた。

文化財保護・教育普及・学術研究を目的とする場合は、著作権（発行者）の承諾なく、この報告書を複製して利用できます。
なお、利用にあたっては、出典を明記してください。

宜野湾市文化財調査報告書　第60集

佐真下屋取古集落遺跡

令和元年
佐真下ゲート前道路整備に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査

発行年　2023 (令和5) 年 2月28日
編　集
発　行　沖縄県宜野湾市教育委員会
住　所　〒901-2203
沖縄県宜野湾市野嵩1丁目1番2号
TEL 098-893-4430
印　刷　有限会社　大創
TEL 098-892-8287